

対象校No.

注4

学校コード F122310106328

注3

設置年度

令和

4年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

静岡理工科大学

理工学部

土木工学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人静岡理工科大学

令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 企画室

職名・氏名

カチョウ モチツキ トモノリ
課長 望月 知徳

電話番号

0538-45-0111

(夜間)

0538-45-0243

e-mail

kikaku@sist.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

理工学部

＜土木工学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	19
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	34
7. その他全般的事項	39

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人静岡理工科大学

(2) 大 学 名

静岡理工科大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒437-8555

静岡県袋井市豊沢2200番地の2

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ハシモト シンペイ) 橋本 新平 (平成29年10月)	(スギウラ ヒロシ) 杉浦 哲 (令和4年6月)	理事長の交代 (令和4年6月1日付) (5)
学 長	(ノグチ ヒロシ) 野口 博 (平成26年4月)	(キムラ マサカズ) 木村 雅和 (令和4年4月)	学長の交代 (令和4年4月1日付) (4)
学 部 長	(イシダ タカヒロ) 石田 隆弘 (平成31年4月)	(トアケ ヤスシ) 十朱 寧 (令和7年4月) (マルタ マコト) 丸田 誠 (令和5年4月)	学部長の交代 (令和7年4月1日付) (7) 学部長の交代 (令和5年4月1日付) (5)
学科長等	(マツモト ケンサク) 松本 健作 (令和4年4月)	(ナカザワ ヒロシ) 中澤 博志 (令和7年4月)	学科長の交代 (令和7年4月1日付) (7)

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してくた

(例) 令和6年度に報告済の内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載 (昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正) するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	31 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
令和5年度	44 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
令和6年度	75 人	2 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学・転学
			令和5年度	1 人	0 人	就学意欲の低下
			令和6年度	0 人	0 人	
令和7年度	98 人	2 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	2 人	0 人	就職(2名とも)
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合 計		4 人		4 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{31} = \boxed{0} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{44} = \boxed{0} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{2}{77} = \boxed{2.59} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{2}{100} = \boxed{2} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和7年度までの5年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合にはそれらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称（学位）	学位又は学科 の分野	設置時の計画				学生募集の停 止について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
理工学部 土木工学科 学士（工学）	工学関係	4 年	50 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	200 人	—	

- (注) ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の2））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 人 — (—) [—]	人 人 — (—) [—]	人 人 — (—) [—]	人 人 — (—) [—]	人 人 50 (—) [—]	人 人 50 (—) [—]	人 人 50 (—) [—]	人 人 50 (—) [—]	人 人 50 (—) [—]	人 人 50 (—) [—]	人 人 50 (—) [—]	人 人 50 (—) [—]	—	0.49 倍	— 倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	162 (—) [1]	— (—) [—]	142 (—) [—]	— (—) [—]	131 (1) [—]	— (—) [—]	107 (—) [—]	— (—) [—]	—	—	—	
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	156 (—) [1]	— (—) [—]	135 (—) [—]	— (—) [—]	131 (1) [—]	— (—) [—]	101 (—) [—]	— (—) [—]	—	—	—	
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	119 (—) [1]	— (—) [—]	109 (—) [—]	— (—) [—]	116 (—) [—]	— (—) [—]	89 (—) [—]	— (—) [—]	—	—	—	
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	31 (—) [1]	— (—) [—]	13 (—) [—]	— (—) [—]	33 (—) [—]	— (—) [—]	25 (—) [—]	— (—) [—]	—	—	—	
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	0.62	—	0.26	—	0.66	—	0.50	—	—	—	—	

- (注) ・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
 - ・（ ）内には、**編入学の状況について外数で記入**してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入**してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳（予定を含む）を記載してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「—」を選択。）
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入**してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次					31 [1] (-)	- [-] (-)	13 [-] (-)	- [-] (-)	33 [-] (-)	- [-] (-)	27 [-] (2)	- [-] (-)	
2 年次							31 [1] (-)	- [-] (-)	14 [-] (2)	- [-] (-)	31 [-] (-)	- [-] (-)	
3 年次									28 [1] (-)	- [-] (-)	14 [-] (2)	- [-] (-)	
4 年次											26 [1] (-)	- [-] (-)	
計	- [-] (-)		- [-] (-)		31 [1] (-)		44 [1] (-)		75 [1] (2)		98 [1] (4)		

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学生数、留学生数を記入してください。

2 授業科目の概要

<理工学部 土木工学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
I 類 (人 間 ・ 文 化 科 目)	フレッシュマンセミナー	1前	2			3	1				
	スポーツ1	1前	1								2
	Advanced English 1	1前		2							4
	General English 1	1前		2							4
	Advanced English 2	1後		2							4
	General English 2	1後		2							4
	Advanced English 3	2前		2							4
	General English 3	2前		2							4
	Advanced English 4	2後		2							4
	General English 4	2後		2							4
	文学	1前		2							1
	文化と文明	1後		2							1
	心理学	2前		2							1
	歴史学	2前		2							1
	現代生活論	3前		2							1
	芸術論	2後		2							1
	国際関係論	1前		2							1
	政治学	1後		2							1
	経済学	2前		2							1
	社会学	2後		2							1
	暮らしのなかの憲法	3前		2							1
	地域学	1後		1							1
	実践技術者講座	2前		1							1
	インターンシップ	3後		1							1
	就職準備ガイダンス	3前		1							1
	インターネットと情報倫理	1前		2							1
	建築の技術と文化	1後		2							3
	科学技術者の倫理	3後		2							1
	地球科学	2前		2							1
	スポーツ2	2後		1							1
	健康の科学	3前		2							3
	スポーツ3	2後		1							1
	スポーツ4	3前		1							1
	英語コミュニケーション	3前		2							1
	中国語1	1前		2							1
	韓国語1	1前		2							1
	中国語2	1後		2							1
	韓国語2	1後		2							1
	国際PBL	3後		1							1
	海外語学研修	1後		1							1
	特別共同講義	2後		2							1
	特別集中講義	2後		2							1
	地域実践活動	2後		1							1
	理工系教養の英語	1前		2							1
	理工系教養の課題研究	1前		2							1
	日本語表現法	1前		2							1
	小計(46科目)	—	3	78	0	3	1	0	0	0	31

【令和7年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
I 類 (人 間 ・ 文 化 科 目)	フレッシュマンセミナー	1前	2			5	3				
	スポーツ1	1前	1								2
	Advanced English 1	1前		2							2
	General English 1	1前		2							5
	Advanced English 2	1後		2							2
	General English 2	1後		2							5
	Advanced English 3	2前		2							2
	General English 3	2前		2							4
	Advanced English 4	2後		2							2
	General English 4	2後		2							3
	文学	1前		2							1
	文化と文明	1後		2							1
	心理学	2前		2							1
	歴史学	2前		2							1
	現代生活論	3前		2							1
	芸術論	2後		2							7
	国際関係論	1前		2							1
	政治学	1後		2							1
	経済学	2前		2							1
	社会学	2後		2							1
	暮らしのなかの憲法	3前		2							1
	地域学	1後		1							1
	実践技術者講座	2前		1		1					
	インターンシップ	3後		1							1
	就職準備ガイダンス	3前		1		1					
	インターネットと情報倫理	1前		2							1
	建築の技術と文化	1後		2							9
	科学技術者の倫理	3後		2							1
	地球科学	2前		2							1
	スポーツ2	2後		1							1
	健康の科学	3前		2							3
	スポーツ3	2後		1							1
	スポーツ4	3前		1							1
	英語コミュニケーション	3前		2							1
	中国語1	1前		2							1
	韓国語1	1前		2							1
	中国語2	1後		2							1
	韓国語2	1後		2							1
	国際PBL	3後		1							1
	海外語学研修	1後		1							1
	特別共同講義	2後		2							1
	特別集中講義	2後		2							1
	地域実践活動	2後		1							1
	理工系教養の英語	1前		2							1
	理工系教養の課題研究	1前		2							1
	日本語表現法	1前		2							1
	小計(46科目)	—	3	78	0	5	3				46

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
Ⅱ類 (学部共通 専門基礎 科目)	基礎数学	1前			3						2
	微分積分/演習	1前		3							1
	微分積分/演習A	1後		3							1
	微分積分/演習B	1後		3							1
	線形代数/演習	1前		3							1
	応用数学	1後		2							1
	微分方程式	2前		2							1
	ベクトル解析	2前		2							1
	理工系教養の数学	1後		2							1
	物理学1	1後		2							1
	化学	1後		2							1
	生物学	1後		2						2	2
	物理学2	2前		2							1
	コンピュータ入門	1前	1								1
	プログラミング入門	1後		1							1
	コンピュータ構成概論	1後		2							1
	データサイエンス概論	2前		2							1
	プログラミング応用	2前		1							1
	科学実験1	1前		1							1
	科学実験2	1前		1							1
	環境化学	1後		2							1
	工業材料とその性質	2後		2							1
	環境と新エネルギー	3前		2							1
	品質工学入門	3後		2							1
	財務システム入門	3後		2							3
	小計(25科目)	-	1	46	3	0	0	0	0	0	26

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
Ⅱ類 (学部共通 専門基礎 科目)	基礎数学	1前			3						2
	微分積分/演習	1前		3							1
	微分積分/演習A	1後		3							1
	微分積分/演習B	1後		3							1
	線形代数/演習	1前		3							2
	応用数学	1後		2							1
	微分方程式	2前		2							1
	ベクトル解析	2前		2							1
	理工系教養の数学	1後		2							1
	物理学1	1後		2							1
	化学	1後		2							1
	生物学	1後		2						2	2
	物理学2	2前		2							1
	コンピュータ入門	1前	1								1
	プログラミング入門	1後		1							1
	コンピュータ構成概論	1後		2							1
	データサイエンス概論	2前		2		1					1
	プログラミング応用	2前		1							2
	科学実験1	1前		1							1
	科学実験2	1前		1							1
	環境化学	1後		2							1
	工業材料とその性質	2後		2							1
	環境と新エネルギー	3前		2							1
	品質工学入門	3後		2							2
	財務システム入門	3後		2							3
	小計(25科目)	-	1	46	3	1	0	0	0	0	24

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
Ⅲ類 (学 科 専 門 科 目)	土木工学概論	1前	2			3	1				
	土木工学数理演習	1前	2				1				
	測量学	1後	2			1					
	測量実習	2前	1			5	3				
	土木工学実験1	2前	2			1	1				
	土木工学実験2	2後	2			2					
	卒業研究1	4前	2			5	3				
	卒業研究2	4後	2			5	3				
	地球災害プロジェクト	1後	2			2					
	減災社会デザインプロジェクト	2前	2			1	1				
	静岡防災まちづくりプロジェクト	3前	2				2				
	建設材料工学	2前	2			1					
	コンクリート構造	2後	2			1					
	土質力学	2前	2			1					
	土質力学演習	2後	2			1					
	水理学	2前	2			1					
	水理学演習	2後	2			1					
	構造力学	2前	2			1					
	構造力学演習	2後	2			1					
	土木計画学	2後	2				1				
	土木計画学演習	3前	2				1				
	インフラネットワーク	3後		2		2					
	維持管理工学	3前		2		1					
	耐震工学	3後		2							1
	地盤工学	3前		2		2					
	土地地質学	3後		2		1					1
	流体理論	3前		2		1					
	海岸工学	3後		2			1				
	災害メカニズム	3後		2		2					
	構造デザイン	3前		2		1					
	インフラマネジメント論	3後		2			1				
	モビリティデザイン	3前		2			1				
	運輸施設工学	3後		2							1
	環境工学	3前		2							1
	環境保全工学	4前		2							1
小計(35科目)											
合計(106科目)											
卒業要件及び履修方法											
Ⅰ類(人間・文化科目)から、必修科目3単位、選択必修科目8単位(※1参照)選択科目12単位以上、Ⅱ類(学部共通専門基礎科目)から、必修科目1単位、選択必修科目3単位(※2参照)、選択科目8単位以上、Ⅲ類(学科専門科目)から、必修科目41単位、選択科目18単位以上を修得し、その他に科目区分関係なく30単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:半期24単位)											
※1: Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする											
※2: 微分積分/演習か微分積分/演習Aもしくは微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする											

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
Ⅲ類 (学 科 専 門 科 目)	土木工学概論	1前	2			5	3				
	土木工学数理演習	1前	2				2				
	測量学	1後	2			1					
	測量実習	2前	1			1					
	土木工学実験1	2前	2			1	1				
	土木工学実験2	2後	2			2					
	卒業研究1	4前	2			5	3				
	卒業研究2	4後	2			5	3				
	地球災害プロジェクト	1後	2			3					
	減災社会デザインプロジェクト	2前	2			1	1				
	静岡防災まちづくりプロジェクト	3前	2				2				
	建設材料工学	2前	2			1					
	コンクリート構造	2後	2			1					
	土質力学	2前	2			1					
	土質力学演習	2後	2			1					
	水理学	2前	2			1					
	水理学演習	2後	2			1	1				
	構造力学	2前	2			1					
	構造力学演習	2後	2			1					
	土木計画学	2後	2				1				
	土木計画学演習	3前	2				1				
	インフラネットワーク	3後		2		2					
	維持管理工学	3前		2		2					
	耐震工学	3後		2							1
	地盤工学	3前		2		1					1
	土地地質学	3後		2		1					
	流体理論	3前		2		1					
	海岸工学	3後		2			1				
	災害メカニズム	3後		2		2					
	構造デザイン	3前		2		1					
	インフラマネジメント論	3後		2			1				
	モビリティデザイン	3前		2			1				
	運輸施設工学	3後		2							1
	環境工学	3前		2		1					
	環境保全工学	4前		2		1					
	職業指導	3後		2							1
	工業科教育法Ⅰ	3前		2							1
	工業科教育法Ⅱ	3後		2							1
小計(35科目)											
合計(106科目)											
卒業要件及び履修方法											
Ⅰ類(人間・文化科目)から、必修科目3単位、選択必修科目8単位(※1参照)選択科目12単位以上、Ⅱ類(学部共通専門基礎科目)から、必修科目1単位、選択必修科目3単位(※2参照)、選択科目8単位以上、Ⅲ類(学科専門科目)から、必修科目41単位、選択科目18単位以上を修得し、その他に科目区分関係なく30単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:半期24単位)											
※1: Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする											
※2: 微分積分/演習か微分積分/演習Aもしくは微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする											

【令和6年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
I 類 (人 間 ・ 文 化 科 目)	フレッシュマンセミナー	1前	2			4	3				
	スポーツ1	1前	1								2
	Advanced English 1	1前		2							2
	General English 1	1前		2							5
	Advanced English 2	1後		2							2
	General English 2	1後		2							5
	Advanced English 3	2前		2							2
	General English 3	2前		2							2
	Advanced English 4	2後		2							1
	General English 4	2後		2							3
	文学	1前		2							1
	文化と文明	1後		2							1
	心理学	2前		2							1
	歴史学	2前		2							1
	現代生活論	3前		2							1
	芸術論	2後		2							1
	国際関係論	1前		2							1
	政治学	1後		2							1
	経済学	2前		2							1
	社会学	2後		2							1
	暮らしのなかの憲法	3前		2							1
	地域学	1後		1							1
	実践技術者講座	2前		1		1					
	インターンシップ	3後		1							1
	就職準備ガイダンス	3前		1			1				
	インターネットと情報倫理	1前		2							1
	建築の技術と文化	1後		2							3
	科学技術者の倫理	3後		2							1
	地球科学	2前		2							1
	スポーツ2	2後		1							1
	健康の科学	3前		2							3
	スポーツ3	2後		1							1
	スポーツ4	3前		1							1
	英語コミュニケーション	3前		2							1
	中国語1	1前		2							1
	韓国語1	1前		2							1
	中国語2	1後		2							1
	韓国語2	1後		2							1
	国際PBL	3後		1							1
	海外語学研修	1後		1							1
	特別共同講義	2後		2							1
	特別集中講義	2後		2							1
	地域実践活動	2後		1							1
	理工系教養の英語	1前		2							1
	理工系教養の課題研究	1前		2							1
	日本語表現法	1前		2							1
	小計(46科目)	—	3	78	0	4	3	0	0	0	35

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
I 類 (人 間 ・ 文 化 科 目)	フレッシュマンセミナー	1前	2			4	3				
	スポーツ1	1前	1								2
	Advanced English 1	1前		2							2
	General English 1	1前		2							5
	Advanced English 2	1後		2							2
	General English 2	1後		2							5
	Advanced English 3	2前		2							1
	General English 3	2前		2							3
	Advanced English 4	2後		2							1
	General English 4	2後		2							3
	文学	1前		2							1
	文化と文明	1後		2							1
	心理学	2前		2							1
	歴史学	2前		2							1
	現代生活論	3前		2							1
	芸術論	2後		2							1
	国際関係論	1前		2							1
	政治学	1後		2							1
	経済学	2前		2							1
	社会学	2後		2							1
	暮らしのなかの憲法	3前		2							1
	地域学	1後		1							1
	実践技術者講座	2前		1		1					
	インターンシップ	3後		1							1
	就職準備ガイダンス	3前		1							1
	インターネットと情報倫理	1前		2							1
	建築の技術と文化	1後		2							3
	科学技術者の倫理	3後		2							1
	地球科学	2前		2							1
	スポーツ2	2後		1							1
	健康の科学	3前		2							3
	スポーツ3	2後		1							1
	スポーツ4	3前		1							1
	英語コミュニケーション	3前		2							1
	中国語1	1前		2							1
	韓国語1	1前		2							1
	中国語2	1後		2							1
	韓国語2	1後		2							1
	国際PBL	3後		1							1
	海外語学研修	1後		1							1
	特別共同講義	2後		2							1
	特別集中講義	2後		2							1
	地域実践活動	2後		1							1
	理工系教養の英語	1前		2							1
	理工系教養の課題研究	1前		2							1
	日本語表現法	1前		2							1
	小計(46科目)	—	3	78	0	4	3	0	0	0	35

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
Ⅱ 類 （学 部 共 通 専 門 基 礎 科 目 ）	基礎数学	1前			3						2
	微分積分/演習	1前		3							1
	微分積分/演習A	1後		3							1
	微分積分/演習B	1後		3							1
	線形代数/演習	1前		3							2
	応用数学	1後		2							1
	微分方程式	2前		2							1
	ベクトル解析	2前		2							1
	理工系教養の数学	1後		2							1
	物理学1	1後		2							1
	化学	1後		2							1
	生物学	1後		2						2	2
	物理学2	2前		2							1
	コンピュータ入門	1前	1								1
	プログラミング入門	1後		1							1
	コンピュータ構成概論	1後		2							1
	データサイエンス概論	2前		2		1					
	プログラミング応用	2前		1							2
	科学実験1	1前		1							1
	科学実験2	1前		1							1
	環境化学	1後		2							1
	工業材料とその性質	2後		2							1
	環境と新エネルギー	3前		2							1
	品質工学入門	3後		2							1
	財務システム入門	3後		2							3
	小計(25科目)	-	1	46	3	1	0	0	0	0	23

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
Ⅱ 類 （学 部 共 通 専 門 基 礎 科 目 ）	基礎数学	1前			3						2
	微分積分/演習	1前		3							1
	微分積分/演習A	1後		3							1
	微分積分/演習B	1後		3							1
	線形代数/演習	1前		3							2
	応用数学	1後		2							1
	微分方程式	2前		2							1
	ベクトル解析	2前		2							1
	理工系教養の数学	1後		2							1
	物理学1	1後		2							1
	化学	1後		2							1
	生物学	1後		2						2	2
	物理学2	2前		2							1
	コンピュータ入門	1前	1								1
	プログラミング入門	1後		1							1
	コンピュータ構成概論	1後		2							1
	データサイエンス概論	2前		2		1					
	プログラミング応用	2前		1							2
	科学実験1	1前		1							1
	科学実験2	1前		1							1
	環境化学	1後		2							1
	工業材料とその性質	2後		2							1
	環境と新エネルギー	3前		2							1
	品質工学入門	3後		2							1
	財務システム入門	3後		2							3
	小計(25科目)	-	1	46	3	1	0	0	0	0	24

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
			修	択	由	授		師	教	手	
Ⅲ 類 (学 科 専 門 科 目)	土木工学概論	1前	2			5	3				
	土木工学数理解演習	1前	2				2				
	測量学	1後	2			5	3				
	測量実習	2前	1			1					
	土木工学実験1	2前	2			1	1				
	土木工学実験2	2後	2			2					
	卒業研究1	4前	2			5	3				
	卒業研究2	4後	2			5	3				
	地球災害プロジェクト	1後	2			3					
	減災社会デザインプロジェクト	2前	2			1	1				
	静岡防災まちづくりプロジェクト	3前	2				2				
	建設材料工学	2前	2			1					
	コンクリート構造	2後	2			1					
	土質力学	2前	2			1					
	土質力学演習	2後	2			1					
	水理学	2前	2			1					
	水理学演習	2後	2			1	1				
	構造力学	2前	2			1					
	構造力学演習	2後	2			1					
	土木計画学	2後	2				2				
	土木計画学演習	3前	2				1				
	インフラネットワーク	3後		2		2					
	維持管理工学	3前		2		2					
	耐震工学	3後		2							1
	地盤工学	3前		2		1					
	土地地質学	3後		2		1					1
	流体理論	3前		2		1					
	海岸工学	3後		2			1				
	災害メカニズム	3後		2		2					
	構造デザイン	3前		2		1					
	インフラマネジメント論	3後		2			1				
	モビリティデザイン	3前		2			1				
	運輸施設工学	3後		2							1
	環境工学	3前		2		1					1
	環境保全工学	4前		2							1
	小計(35科目)	-	41	28	0	5	3	0	0	0	4
合計(106科目)			-	45	152	3	5	3	0	0	61
卒業要件及び履修方法											
Ⅰ類(人間・文化科目)から、必修科目3単位、選択必修科目8単位(※1参照)選択科目12単位以上、Ⅱ類(学部共通専門基礎科目)から、必修科目1単位、選択必修科目3単位(※2参照)、選択科目8単位以上、Ⅲ類(学科専門科目)から、必修科目41単位、選択科目18単位以上を修得し、その他に科目区分関係なく30単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:半期24単位)											
※1:Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする ※2:微分積分/演習か微分積分/演習Aもしくは微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする											

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
			修	択	由	授		師	教	手	
Ⅲ 類 (学 科 専 門 科 目)	土木工学概論	1前	2			3	1				
	土木工学数理解演習	1前	2				2				
	測量学	1後	2			2					
	測量実習	2前	1			4	3				
	土木工学実験1	2前	2			1	1				
	土木工学実験2	2後	2			2					
	卒業研究1	4前	2			5	3				
	卒業研究2	4後	2			5	3				
	地球災害プロジェクト	1後	2			2					
	減災社会デザインプロジェクト	2前	2			1	1				
	静岡防災まちづくりプロジェクト	3前	2				2				
	建設材料工学	2前	2			1					
	コンクリート構造	2後	2			1					
	土質力学	2前	2			1					
	土質力学演習	2後	2			1					
	水理学	2前	2			1					
	水理学演習	2後	2			1	1				
	構造力学	2前	2			1					
	構造力学演習	2後	2			1					
	土木計画学	2後	2				1				
	土木計画学演習	3前	2				1				
	インフラネットワーク	3後		2		2					
	維持管理工学	3前		2		1					
	耐震工学	3後		2							1
	地盤工学	3前		2		2					
	土地地質学	3後		2		1					
	流体理論	3前		2		1					
	海岸工学	3後		2			1				
	災害メカニズム	3後		2		2					
	構造デザイン	3前		2		1					
	インフラマネジメント論	3後		2			1				
	モビリティデザイン	3前		2			1				
	運輸施設工学	3後		2							1
	環境工学	3前		2							1
	環境保全工学	4前		2							1
	小計(35科目)	-	41	28	0	5	3	0	0	0	4
合計(106科目)			-	45	152	3	5	3	0	0	62
卒業要件及び履修方法											
Ⅰ類(人間・文化科目)から、必修科目3単位、選択必修科目8単位(※1参照)選択科目12単位以上、Ⅱ類(学部共通専門基礎科目)から、必修科目1単位、選択必修科目3単位(※2参照)、選択科目8単位以上、Ⅲ類(学科専門科目)から、必修科目41単位、選択科目18単位以上を修得し、その他に科目区分関係なく30単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:半期24単位)											
※1:Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする ※2:微分積分/演習か微分積分/演習Aもしくは微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする											

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
Ⅰ 類 （人 間 ・ 文 化 科 目 ）	フレッシュマンセミナー	1前	2			3	1				
	スポーツ1	1前	1								2
	Advanced English 1	1前		2							2
	General English 1	1前		2							5
	Advanced English 2	1後		2							2
	General English 2	1後		2							4
	Advanced English 3	2前		2							4
	General English 3	2前		2							4
	Advanced English 4	2後		2							4
	General English 4	2後		2							4
	文学	1前		2							1
	文化と文明	1後		2							1
	心理学	2前		2							1
	歴史学	2前		2							1
	現代生活論	3前		2							1
	芸術論	2後		2							1
	国際関係論	1前		2							1
	政治学	1後		2							1
	経済学	2前		2							1
	社会学	2後		2							1
	暮らしのなかの憲法	3前		2							1
	地域学	1後		1							1
	実践技術者講座	2前		1							1
	インターンシップ	3後		1							1
	就職準備ガイダンス	3前		1							1
	インターネットと情報倫理	1前		2							1
	建築の技術と文化	1後		2							3
	科学技術者の倫理	3後		2							1
	地球科学	2前		2							1
	スポーツ2	2後		1							1
	健康の科学	3前		2							3
	スポーツ3	2後		1							1
	スポーツ4	3前		1							1
	英語コミュニケーション	3前		2							1
	中国語1	1前		2							1
	韓国語1	1前		2							1
	中国語2	1後		2							1
	韓国語2	1後		2							1
	国際PBL	3後		1							1
	海外語学研修	1後		1							1
	特別共同講義	2後		2							1
	特別集中講義	2後		2							1
	地域実践活動	2後		1							1
	理工系教養の英語	1前		2							1
	理工系教養の課題研究	1前		2							1
	日本語表現法	1前		2							1
	小計(46科目)	—	3	78	0	3	1	0	0	0	33

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
Ⅱ 類 (学 部 共 通 専 門 基 礎 科 目)	基礎数学	1前			3						2
	微分積分/演習	1前		3							1
	微分積分/演習A	1後		3							1
	微分積分/演習B	1後		3							1
	線形代数/演習	1前		3							1
	応用数学	1後		2							1
	微分方程式	2前		2							1
	ベクトル解析	2前		2							1
	理工系教養の数学	1後		2							1
	物理学1	1後		2							1
	化学	1後		2							1
	生物学	1後		2							2
	物理学2	2前		2							1
	コンピュータ入門	1前	1								1
	プログラミング入門	1後		1							1
	コンピュータ構成概論	1後		2							1
	データサイエンス概論	2前		2							1
	プログラミング応用	2前		1							1
	科学実験1	1前		1							1
	科学実験2	1前		1							1
	環境化学	1後		2							1
	工業材料とその性質	2後		2							1
	環境と新エネルギー	3前		2							1
	品質工学入門	3後		2							1
	財務システム入門	3後		2							3
	小計(25科目)	-	1	46	3	0	0	0	0	0	24

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
Ⅲ 類 (学 科 専 門 科 目)	土木工学概論	1前	2			3	1				
	土木工学数理演習	1前	2				1				
	測量学	1後	2			2					
	測量実習	2前	1			5	3				
	土木工学実験1	2前	2			1	1				
	土木工学実験2	2後	2			2					
	卒業研究1	4前	2			5	3				
	卒業研究2	4後	2			5	3				
	地球災害プロジェクト	1後	2			2					
	減災社会デザインプロジェクト	2前	2			1	1				
	静岡防災まちづくりプロジェクト	3前	2				2				
	建設材料工学	2前	2			1					
	コンクリート構造	2後	2			1					
	土質力学	2前	2			1					
	土質力学演習	2後	2			1					
	水理学	2前	2			1					
	水理学演習	2後	2			1					
	構造力学	2前	2			1					
	構造力学演習	2後	2			1					
	土木計画学	2後	2				1				
	土木計画学演習	3前	2				1				
	インフラネットワーク	3後		2		2					
	維持管理工学	3前		2		1					
	耐震工学	3後		2							1
	地盤工学	3前		2		2					
	土木地質学	3後		2		1					
	流体理論	3前		2		1					
	海岸工学	3後		2			1				
	災害メカニズム	3後		2		2					
	構造デザイン	3前		2		1					
	インフラマネジメント論	3後		2			1				
	モビリティデザイン	3前		2			1				
	運輸施設工学	3後		2							1
	環境工学	3前		2							1
	環境保全工学	4前		2							1
	小計(35科目)	-	41	28	0	5	3	0	0	0	4
	合計(106科目)	-	45	152	3	5	3	0	0	0	61
卒業要件及び履修方法											
Ⅰ類(人間・文化科目)から、必修科目3単位、選択必修科目8単位(※1参照)選択科目12単位以上、Ⅱ類(学部共通専門基礎科目)から、必修科目1単位、選択必修科目3単位(※2参照)、選択科目8単位以上、Ⅲ類(学科専門科目)から、必修科目41単位、選択科目18単位以上を修得し、その他に科目区分関係なく30単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:半期24単位)											
※1: Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする											
※2: 微分積分/演習か微分積分/演習Aもしくは微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする											

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には【※】、「臨地実務実習」による授業科目には【臨】、「連携実務演習」による授業科目には【連】を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・担当科目の見直しのため、「Advanced English 1」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「General English 1」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼5」に変更。
- ・担当科目の見直しのため、「Advanced English 2」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「測量学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。

【令和5年度】

- ・初年次の導入科目を学科の専任教員全員で担当する理由により、「フレッシュマンセミナー」の専任教員等の配置を「教授3、准教授1」から「教授4、准教授3」に変更。
- ・担当科目の見直しのため、「Advanced English 3」「Advanced English 4」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼1」に変更。
- ・担当科目の見直しのため、「General English 3」「General English 4」の専任教員等の配置を「兼4」から「兼3」に変更。
- ・担当科目の見直しのため、「実践技術者講座」「データサイエンス概論」の専任教員等の配置を「兼1」から「教授1」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「線形代数/演習」「プログラミング応用」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「土木工学数理解習」「土木計画学」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・担当科目の見直しのため、「測量実習」の専任教員等の配置を「教授5、准教授3」から「教授4、准教授3」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「水理学演習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1、准教授1」に変更。

【令和6年度】

- ・担当科目の見直しのため、「General English 3」の専任教員等の配置を「兼3」から「兼2」に変更。
- ・担当科目の見直しのため、「就職準備ガイダンス」の専任教員等の配置を「兼1」から「准教授1」に変更。
- ・担当科目の見直しのため、「測量実習」の専任教員等の配置を「教授4、准教授3」から「教授1」に変更。
- ・担当科目の見直しのため、「地盤工学」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「Advanced English 3」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「土木工学概論」の専任教員等の配置を「教授3、准教授1」から「教授5、准教授3」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「測量学」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授5、准教授3」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「地球災害プロジェクト」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「土木計画学」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「維持管理工学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「土地地質学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1、兼1」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「環境工学」の専任教員等の配置を「兼1」から「教授1」に変更。

【令和7年度】

- ・教育課程の充実を図るため、「フレッシュマンセミナー」の専任教員等の配置を「教授4、准教授3」から「教授5、准教授3」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「General English 3」の専任教員等の配置を「兼2」から「兼4」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「Advanced English 4」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「芸術論」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼7」に変更。
- ・担当科目の見直しのため、「就職準備ガイダンス」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「建築の技術と文化」の専任教員等の配置を「兼3」から「兼9」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「品質工学入門」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・担当科目の見直しのため、「測量学」の専任教員等の配置を「教授5、准教授3」から「教授1」に変更。
- ・担当科目の見直しのため、「土木計画学」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・教育課程の充実を図るため、「環境保全工学」の専任教員等の配置を「兼1」から「教授1」に変更。
- ・教職課程（高等学科教諭1種（工業））開設にともない、「職業指導」、「工業科教育法Ⅰ」、「工業科教育法Ⅱ」を追加。

- (注)・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
24 科目	81 科目	1 科目	106 科目	24 科目 []	84 科目 [3]	1 科目 []	109 科目 [3]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、

学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{106} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	70,843㎡ 68,839㎡ 68,035㎡	0㎡	0㎡	70,843㎡ 68,839㎡ 68,035㎡			
	運動場用地	24,611㎡	0㎡	0㎡	24,611㎡	新設学科校舎の設計 変更による実績値 (5)		
	小 計	95,454㎡ 93,450㎡ 92,646㎡	0㎡	0㎡	95,454㎡ 93,450㎡ 92,646㎡	新校舎設置による変 更 (6)		
	そ の 他	110,851㎡ 111,655㎡	0㎡	0㎡	110,851㎡ 111,655㎡			
	合 計	206,305㎡ 204,301㎡	0㎡	0㎡	206,305㎡ 204,301㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	32,055㎡ 31,122㎡ 31,114㎡	0㎡	0㎡	32,055㎡ 31,122㎡ 31,114㎡	新設学科校舎の設計 変更による実績値 (5)			
	(27,343㎡)	(0 ㎡)	(0 ㎡)	(27,343㎡)	新校舎設置による変 更 (6)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	2 6 室 2 3 室 2 6 室	2 0 室 1 6 室 7 室	1 4 6 室 1 2 8 室 1 1 6 室	4 室 5 室 4 室 (補助職員 一人)	1 室 (補助職員 一人)	教室の改修計画の変 更による実績値 (5) 教室の一部変更、改 修 (6)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		居室の一部変更、改 修 (6)		
		理工学部 土木工学科		9 8 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書・視聴覚資料は 購入計画の見直しに より減少 (4) 学術雑誌は購入計画 の見直しにより増加 (4) 図書・学術雑誌・視 聴覚資料は購入計画 の見直しにより増加 (5) 図書・視聴覚資料は 購入計画の見直しに より増加 (6) 図書・視聴覚資料は 購入計画の見直しに より増加 (7)
	理工学部 土木工学科	1,999 [199] (2,074 [119]) (1,761 [102]) (1,403 [78]) (1,055 [46]) (1,333 [133])	20 [10] (25 [5]) (18 [3]) (16 [8])	4 [4] (5 [5]) (3 [3])	2,800 (2,570) (2,535) (2,504) (2,470) (2,600)	— (—)	— (—)	
	計	1,999 [199] (2,074 [119]) (1,761 [102]) (1,403 [78]) (1,055 [46]) (1,333 [133])	20 [10] (25 [5]) (18 [3]) (16 [8])	4 [4] (5 [5]) (3 [3])	2,800 (2,570) (2,535) (2,504) (2,470) (2,600)	— (—)	— (—)	
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		
		1,672㎡		254		124,324		
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		1,217㎡		テ ニ ス コ ー ト 3 面 ト レ ー ニ ン グ 室				
(8) 経費の見 積り及び 維持方法 の 概 要	経費の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人当り研究費等	550千円	550千円	図書購入費	7,060千円	1,930千円	850千円
		共 同 研 究 費 等	1,700千円	1,700千円	設備購入費	80,000千円	80,000千円	80,000千円
	学生 1 人当 り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		1,540千円	1,250千円	1,260千円	1,270千円	— 千円	— 千円	
		学生納付金以外の維持方法の概要						

(注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号 (その 1 の 1) に準じて作成してください。

(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び

「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延) がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称											収容定員充足率0.7倍以下の学科数	5	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考			
理工学部	4	310	—	1220	—	0.68	—	—	平成3	—	静岡県袋井市豊沢2200番地の2			
土木工学科	4	50	—	200	学士(工学)	0.49	—	—	令和4	同上				
機械工学科	4	80	—	315	学士(工学)	0.63	—	令和5	平成3	同上				
電気電子工学科	4	70	—	270	学士(工学)	0.62	—	令和5	平成3	同上				
物質生命科学科	4	60	—	235	学士(理学)	0.70	—	令和5	平成3	同上				
建築学科	4	50	—	200	学士(工学)	1.02	—	—	平成29	同上				
情報学部	4	140	—	550	—	1.09	1.08	—	平成20	—	静岡県袋井市豊沢2200番地の2			
コンピュータシステム学科	4	70	—	270	学士(情報学)	1.19	1.18	令和5	平成20	同上				
情報デザイン学科	4	70	—	280	学士(情報学)	1.00	0.98	—	平成20	同上				
大学全体	4	450	—	1770	—	0.81	—	—	—	—	※情報学部は学部で一括募集し2年進級時に学科配属を行う			

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等

（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。

なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「—」とした上で、「非表示」設定としてください。

・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。

履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度 A C の対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。

開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。

・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」

第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。

なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。

・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。

詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

(1) 一① 担当教員表

等性：	
兼担：	

20

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	居波 智也 (41) ＜令和5年4月＞ 博士（工学）	専	准教授	居波 智也 (41) ＜令和5年4月＞ 博士（工学）	専	准教授	居波 智也 (41) ＜令和5年4月＞ 博士（工学）	専	准教授	居波 智也 (42) ＜令和5年4月＞ 博士（工学）	専	准教授	居波 智也 (43) ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		測量実習 土木工学実験1 卒業研究1 卒業研究2 減災社会デザインプロジェクト 海岸工学			測量実習 土木工学実験1 卒業研究1 卒業研究2 減災社会デザインプロジェクト 海岸工学			フレッシュマンセミナー 就職準備ガイダンス 土木工学概論 測量学 測量実習 土木工学実験1 卒業研究1 卒業研究2 減災社会デザインプロジェクト 水理学演習 海岸工学			フレッシュマンセミナー 就職準備ガイダンス 土木工学概論 測量学 測量実習 土木工学実験1 卒業研究1 卒業研究2 減災社会デザインプロジェクト 水理学演習 海岸工学			フレッシュマンセミナー 就職準備ガイダンス 土木工学概論 測量学 測量実習 土木工学実験1 卒業研究1 卒業研究2 減災社会デザインプロジェクト 水理学演習 海岸工学
						専	教授	Mahapatra Kedarnath (62) ＜令和5年9月＞ 博士（工学）	専	教授	Mahapatra Kedarnath (63) ＜令和5年9月＞ 博士（工学）	専	教授	Mahapatra Kedarnath (64) ＜令和5年9月＞ 博士（工学）
								土木工学概論 測量学 卒業研究1 卒業研究2 地球災害プロジェクト 減災社会デザインプロジェクト 環境工学			土木工学概論 測量学 卒業研究1 卒業研究2 地球災害プロジェクト 減災社会デザインプロジェクト 環境工学			フレッシュマンセミナー 土木工学概論 測量学 卒業研究1 卒業研究2 地球災害プロジェクト 減災社会デザインプロジェクト 環境工学 環境保全工学
兼任	教授	秋山 憲治 (65)（高） ＜令和4年4月＞ 博士（人間科学）	兼任	教授	秋山 憲治 (66)（高） ＜令和4年4月＞ 博士（人間科学）	兼任	教授	秋山 憲治 (67)（高） ＜令和4年4月＞ 博士（人間科学）	兼任	教授	秋山 憲治 (68)（高） ＜令和4年4月＞ 博士（人間科学）			
		現代生活論 社会学			現代生活論 社会学			現代生活論 社会学			現代生活論 社会学			
兼任	教授	石田 隆弘 (57) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	教授	石田 隆弘 (57) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）									
		地域学 特別集中講義			地域学 特別集中講義									
兼任	教授	大楢 弘順 (63) ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	教授	大楢 弘順 (63) ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	教授	大楢 弘順 (64) ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	教授	大楢 弘順 (65) ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	教授	大楢 弘順 (66) ＜令和4年4月＞ 理学博士
		生物学			生物学			生物学			生物学			生物学
兼任	教授	奥村 哲 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）												
		生物学												
兼任	教授	太田 達見 (62)（高） ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	教授	太田 達見 (62)（高） ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	教授	太田 達見 (63)（高） ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	教授	太田 達見 (64)（高） ＜令和4年4月＞ 博士（工学）			
		建築の技術と文化			建築の技術と文化			建築の技術と文化			建築の技術と文化			
兼任	教授	小栗 勝也 (57) ＜令和4年4月＞ 法学修士	兼任	教授	小栗 勝也 (57) ＜令和4年4月＞ 法学修士	兼任	教授	小栗 勝也 (58) ＜令和4年4月＞ 法学修士	兼任	教授	小栗 勝也 (59) ＜令和4年4月＞ 法学修士	兼任	教授	小栗 勝也 (60) ＜令和4年4月＞ 法学修士
		歴史学 政治学 特別共同講義			歴史学 政治学 特別共同講義			歴史学 政治学 特別共同講義			歴史学 政治学 特別共同講義			歴史学 政治学 特別共同講義
兼任	特命講師	加藤 智久 (66) ＜令和4年4月＞ 工学士	兼任	特命講師	加藤 智久 (66) ＜令和4年4月＞ 工学士	兼任	特命講師	加藤 智久 (67) ＜令和4年4月＞ 工学士						
		理工系教養の数学			理工系教養の数学			微分積分/演習A 理工系教養の数学						
兼任	教授	慇本 広文 (54) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	教授	慇本 広文 (54) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	教授	慇本 広文 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）						
		実践技術者講座 就職準備ガイダンス			実践技術者講座 就職準備ガイダンス			実践技術者講座 就職準備ガイダンス						
兼任	教授	水野 信也 (46) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	教授	水野 信也 (46) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）									
		データサイエンス概論			データサイエンス概論									
兼任	教授	関山 秀雄 (66)（高） ＜令和4年4月＞ 博士（理学）												
		応用数学												
兼任	教授	笠谷 祐史 (61) ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	教授	笠谷 祐史 (61) ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	教授	笠谷 祐史 (62) ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	教授	笠谷 祐史 (63) ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	教授	笠谷 祐史 (64) ＜令和4年4月＞ 理学博士
		物理学2			物理学2			物理学2			物理学2			物理学2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	佐藤 彰 (62) (高) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	環境と新エネルギー
兼任	教授	佐藤 健司 (63) (高) ＜令和4年4月＞ 工学修士	建築の技術と文化 国際PBL 海外語学研修
兼任	教授	友次 克子 (59) ＜令和4年4月＞ 文学修士	Advanced English 1 General English 1 Advanced English 2 General English 2 Advanced English 3 General English 3 Advanced English 4 General English 4
兼任	教授	富田 寿人 (62) ＜令和4年4月＞ 体育学修士	スポーツ1 スポーツ2 スポーツ3 スポーツ4 健康の科学 地域実践活動
兼任	教授	十朱 享 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	科学実験1 科学実験2
兼任	教授	丸田 誠 (63) (高) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	建築の技術と文化
兼任	教授	三林 雅彦 (60) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	線形代数/演習
兼任	教授	野崎 孝志 (61) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	インターンシップ
兼任	講師	A. B. Jenkins (41) ＜令和4年4月＞ Bachelor of Arts (languages) (オーストラリア)	Advanced English 1 General English 1 Advanced English 2 General English 2 Advanced English 3 General English 3 Advanced English 4 General English 4 英語コミュニケーション
兼任	准教授	小土橋 陽平 (38) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	物理学1
兼任	准教授	牧野 育代 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	微分方程式 微分積分/演習A
兼任	准教授	高野 敏明 (36) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	コンピュータ構成概論
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	佐藤 彰 (62) (高) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	環境と新エネルギー
兼任	教授	佐藤 健司 (63) (高) ＜令和4年4月＞ 工学修士	建築の技術と文化 国際PBL 海外語学研修
兼任	教授	友次 克子 (59) ＜令和4年4月＞ 文学修士	Advanced English 1 General English 1 Advanced English 2 General English 2 Advanced English 3 General English 3 Advanced English 4 General English 4
兼任	教授	富田 寿人 (62) ＜令和4年4月＞ 体育学修士	スポーツ1 スポーツ2 スポーツ3 スポーツ4 健康の科学 地域実践活動
兼任	教授	十朱 享 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	科学実験1 科学実験2
兼任	教授	丸田 誠 (63) (高) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	建築の技術と文化
兼任	教授	野崎 孝志 (61) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	インターンシップ
兼任	講師	A. B. Jenkins (41) ＜令和4年4月＞ Bachelor of Arts (languages) (オーストラリア)	Advanced English 1 General English 1 Advanced English 2 General English 2 Advanced English 3 General English 3 Advanced English 4 General English 4 英語コミュニケーション
兼任	准教授	小土橋 陽平 (38) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	物理学1
兼任	准教授	牧野 育代 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	微分方程式 微分積分/演習A
兼任	准教授	高野 敏明 (36) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	コンピュータ構成概論
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	佐藤 彰 (63) (高) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	プログラミング応用 環境と新エネルギー
兼任	教授	佐藤 健司 (64) (高) ＜令和4年4月＞ 工学修士	建築の技術と文化 国際PBL 海外語学研修
兼任	教授	友次 克子 (60) ＜令和4年4月＞ 文学修士	Advanced English 1 General English 1 Advanced English 2 General English 2 Advanced English 3 General English 3 Advanced English 4 General English 4
兼任	教授	富田 寿人 (64) ＜令和4年4月＞ 体育学修士	スポーツ1 スポーツ2 スポーツ3 スポーツ4 健康の科学 特別集中講義 地域実践活動
兼任	教授	十朱 享 (56) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	特別共同講義 科学実験1 科学実験2
兼任	教授	丸田 誠 (65) (高) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	建築の技術と文化
兼任	教授	野崎 孝志 (62) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	インターンシップ
兼任	講師	A. B. Jenkins (42) ＜令和4年4月＞ Bachelor of Arts (languages) (オーストラリア)	Advanced English 1 General English 1 Advanced English 2 General English 2 Advanced English 3 General English 3 Advanced English 4 General English 4 英語コミュニケーション
兼任	准教授	牧野 育代 (52) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	微分方程式 微分積分/演習A
兼任	准教授	高野 敏明 (38) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	コンピュータ構成概論
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	特任教授	佐藤 彰 (65) (高) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	プログラミング応用 環境と新エネルギー
兼任	教授	友次 克子 (62) ＜令和4年4月＞ 文学修士	Advanced English 1 General English 1 Advanced English 2 General English 2 Advanced English 3 General English 3 Advanced English 4 General English 4
兼任	教授	富田 寿人 (66) ＜令和4年4月＞ 体育学修士	スポーツ1 スポーツ2 スポーツ3 スポーツ4 健康の科学 特別集中講義 地域実践活動
兼任	講師	A. B. Jenkins (44) ＜令和4年4月＞ Bachelor of Arts (languages) (オーストラリア)	Advanced English 1 General English 1 Advanced English 2 General English 2 Advanced English 3 General English 3 Advanced English 4 General English 4 英語コミュニケーション
兼任	教授	牧野 育代 (54) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	微分方程式 微分積分/演習A 環境と新エネルギー
兼任	准教授	高野 敏明 (40) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	コンピュータ構成概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	佐藤 彰 (65) ＜令和7年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	佐藤 彰 (65) ＜令和7年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	佐藤 彰 (65) ＜令和7年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	佐藤 彰 (65) ＜令和7年4月＞ 博士（工学）
		環境と新エネルギー			環境と新エネルギー			プログラミング応用 環境と新エネルギー			
兼任	講師	佐藤 健司 (65) ＜令和6年4月＞ 工学修士	兼任	講師	佐藤 健司 (65) ＜令和6年4月＞ 工学修士	兼任	講師	佐藤 健司 (65) ＜令和6年4月＞ 工学修士	兼任	講師	佐藤 健司 (65) ＜令和6年4月＞ 工学修士
		建築の技術と文化			建築の技術と文化			建築の技術と文化			
兼任	講師	丸田 誠 (65) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	丸田 誠 (66) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	丸田 誠 (66) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）			
		建築の技術と文化			建築の技術と文化			建築の技術と文化			
兼任	講師	R. G. McNabb (65) ＜令和5年4月＞ 文学修士	兼任	講師	R. G. McNabb (65) ＜令和5年4月＞ 文学修士						
		Advanced English 1 General English 1 Advanced English 2 General English 2 Advanced English 3 General English 3 Advanced English 4 General English 4			Advanced English-1 General English 1 Advanced English-2 General English 2 Advanced English 3 General English 3 Advanced English 4 General English 4						
兼任	特命准教授	大石 昌利 (64) ＜令和4年4月＞ 理学学士									
		基礎数学									
兼任	講師	金久保 正明 (59) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）									
		インターネットと情報倫理									
兼任	講師	藤原 弘 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	藤原 弘 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）						
		工業材料とその性質			工業材料とその性質						
兼任	講師	中川 伝一 (66) ＜令和4年4月＞ 工学士									
		品質工学入門									
兼任	講師	石井 馨 (64) ＜令和4年4月＞ 医学士	兼任	講師	石井 馨 (64) ＜令和4年4月＞ 医学士	兼任	講師	石井 馨 (65) ＜令和4年4月＞ 医学士	兼任	講師	石井 馨 (66) ＜令和4年4月＞ 医学士
		健康の科学			健康の科学			健康の科学			
兼任	講師	石井 緑 (61) ＜令和4年4月＞ 保健衛生学士	兼任	講師	石井 緑 (61) ＜令和4年4月＞ 保健衛生学士	兼任	講師	石井 緑 (62) ＜令和4年4月＞ 保健衛生学士	兼任	講師	石井 緑 (64) ＜令和4年4月＞ 保健衛生学士
		健康の科学			健康の科学			健康の科学			健康の科学
兼任	講師	王 彦 (52) ＜令和4年4月＞ 修士（教育）	兼任	講師	王 彦 (52) ＜令和4年4月＞ 修士（教育）	兼任	講師	王 彦 (53) ＜令和4年4月＞ 修士（教育）	兼任	講師	王 彦 (55) ＜令和4年4月＞ 修士（教育）
		中国語 1 中国語 2			中国語 1 中国語 2			中国語 1 中国語 2			中国語 1 中国語 2
兼任	講師	大鷹 紀信 (59) ＜令和4年4月＞ 商学士	兼任	講師	大鷹 紀信 (60) ＜令和4年4月＞ 商学士	兼任	講師	大鷹 紀信 (61) ＜令和4年4月＞ 商学士	兼任	講師	大鷹 紀信 (62) ＜令和4年4月＞ 商学士
		財務システム入門			財務システム入門			財務システム入門			財務システム入門
兼任	講師	岡澤 裕子 (52) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	岡澤 裕子 (53) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	岡澤 裕子 (54) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	岡澤 裕子 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		地球科学			地球科学			地球科学			地球科学
兼任	講師	上藤 一郎 (61) ＜令和4年4月＞ 経済学修士	兼任	講師	上藤 一郎 (61) ＜令和4年4月＞ 経済学修士	兼任	講師	上藤 一郎 (62) ＜令和4年4月＞ 経済学修士	兼任	講師	上藤 一郎 (64) ＜令和4年4月＞ 経済学修士
		経済学			経済学			経済学			経済学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		金 兌柱 (67) ＜令和4年4月＞ 準学士（日本語）
		韓国語1 韓国語2
兼任 講師		越水 重臣 (57) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		品質工学入門
兼任 講師		小林 健吉郎 (70) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		化学
兼任 講師		齋藤 正寛 (65) ＜令和4年4月＞ 工学士
		コンピュータ入門 プログラミング入門
兼任 講師		篠田 かおる (58) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		基礎数学 微分積分/演習B
兼任 講師		菅沼 義昇 (74) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		プログラミング応用
兼任 講師		杉田 玲子 (66) ＜令和4年4月＞ 文学士
		日本語表現法
兼任 講師		高木 健治郎 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（国際学）
		科学技術者の倫理
兼任 講師		瀬本 厚子 (63) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		スポーツ1
兼任 講師		竹内 一博 (67) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		微分積分/演習
兼任 講師		都築 博子 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（国際関係）
		国際関係論
兼任 講師		中谷 広正 (70) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		ベクトル解析
兼任 講師		中村 英治 (48) ＜令和4年4月＞ 学士（商学）
		財務システム入門
兼任 講師		山下 浩司 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（法学）
		財務システム入門

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		金 兌柱 (67) ＜令和4年4月＞ 準学士（日本語）
		韓国語1 韓国語2
兼任 講師		越水 重臣 (57) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		品質工学入門
兼任 講師		小林 健吉郎 (70) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		化学
兼任 講師		齋藤 正寛 (65) ＜令和4年4月＞ 工学士
		コンピュータ入門 プログラミング入門
兼任 講師		篠田 かおる (58) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		基礎数学 微分積分/演習B
兼任 講師		菅沼 義昇 (74) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		プログラミング応用
兼任 講師		杉田 玲子 (66) ＜令和4年4月＞ 文学士
		日本語表現法
兼任 講師		高木 健治郎 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（国際学）
		科学技術者の倫理
兼任 講師		瀬本 厚子 (63) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		スポーツ1
兼任 講師		竹内 一博 (67) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		基礎数学 微分積分/演習 微分積分/演習A
兼任 講師		都築 博子 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（国際関係）
		国際関係論
兼任 講師		中谷 広正 (70) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		ベクトル解析
兼任 講師		中村 英治 (48) ＜令和4年4月＞ 学士（商学）
		財務システム入門
兼任 講師		山下 浩司 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（法学）
		財務システム入門

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		越水 重臣 (58) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		品質工学入門
兼任 講師		小林 健吉郎 (71) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		化学
兼任 講師		齋藤 正寛 (66) ＜令和4年4月＞ 工学士
		コンピュータ入門 プログラミング入門
兼任 講師		篠田 かおる (59) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		基礎数学 微分積分/演習B
兼任 講師		杉田 玲子 (67) ＜令和4年4月＞ 文学士
		日本語表現法
兼任 講師		高木 健治郎 (49) ＜令和4年4月＞ 修士（国際学）
		科学技術者の倫理
兼任 講師		瀬本 厚子 (64) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		スポーツ1
兼任 講師		竹内 一博 (68) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		基礎数学 微分積分/演習 微分積分/演習A
兼任 講師		都築 博子 (52) ＜令和4年4月＞ 博士（国際関係）
		国際関係論
兼任 講師		中谷 広正 (71) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		線形代数/演習 ベクトル解析
兼任 講師		中村 英治 (49) ＜令和4年4月＞ 学士（商学）
		財務システム入門
兼任 講師		山下 浩司 (49) ＜令和4年4月＞ 修士（法学）
		財務システム入門

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		越水 重臣 (59) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		品質工学入門
兼任 講師		小林 健吉郎 (72) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		化学
兼任 講師		齋藤 正寛 (67) ＜令和4年4月＞ 工学士
		コンピュータ入門 プログラミング入門
兼任 講師		篠田 かおる (60) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		基礎数学 微分積分/演習B
兼任 講師		杉田 玲子 (68) ＜令和4年4月＞ 文学士
		日本語表現法
兼任 講師		高木 健治郎 (50) ＜令和4年4月＞ 修士（国際学）
		科学技術者の倫理
兼任 講師		瀬本 厚子 (65) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		スポーツ1
兼任 講師		竹内 一博 (69) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		基礎数学 微分積分/演習 微分積分/演習A
兼任 講師		都築 博子 (53) ＜令和4年4月＞ 博士（国際関係）
		国際関係論
兼任 講師		中谷 広正 (72) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		線形代数/演習 ベクトル解析
兼任 講師		中村 英治 (50) ＜令和4年4月＞ 学士（商学）
		財務システム入門
兼任 講師		山下 浩司 (50) ＜令和4年4月＞ 修士（法学）
		財務システム入門

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 講師		越水 重臣 (60) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		品質工学入門
兼任 講師		小林 健吉郎 (73) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		化学
兼任 講師		齋藤 正寛 (68) ＜令和4年4月＞ 工学士
		コンピュータ入門 プログラミング入門
兼任 講師		篠田 かおる (61) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		基礎数学 微分積分/演習B
兼任 講師		杉田 玲子 (69) ＜令和4年4月＞ 文学士
		日本語表現法
兼任 講師		高木 健治郎 (51) ＜令和4年4月＞ 修士（国際学）
		科学技術者の倫理
兼任 講師		瀬本 厚子 (66) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		スポーツ1
兼任 講師		竹内 一博 (70) ＜令和4年4月＞ 博士（工学）
		基礎数学 微分積分/演習 微分積分/演習A
兼任 講師		都築 博子 (54) ＜令和4年4月＞ 博士（国際関係）
		国際関係論
兼任 講師		中谷 広正 (73) ＜令和4年4月＞ 工学博士
		線形代数/演習 ベクトル解析
兼任 講師		中村 英治 (51) ＜令和4年4月＞ 学士（商学）
		財務システム入門
兼任 講師		山下 浩司 (51) ＜令和4年4月＞ 修士（法学）
		財務システム入門

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	西川 義晃 (47) ＜令和4年4月＞ 修士（法学）	兼任	講師	西川 義晃 (47) ＜令和4年4月＞ 修士（法学）	兼任	講師	西川 義晃 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（法学）	兼任	講師	西川 義晃 (50) ＜令和4年4月＞ 修士（法学）	兼任	講師	西川 義晃 (50) ＜令和4年4月＞ 修士（法学）
		暮らしのなかの憲法			暮らしのなかの憲法			暮らしのなかの憲法			暮らしのなかの憲法			暮らしのなかの憲法
兼任	講師	古郡 康人 (69) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	古郡 康人 (69) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	古郡 康人 (70) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	古郡 康人 (72) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	古郡 康人 (72) ＜令和4年4月＞ 文学修士
		文学			文学			文学			文学			文学
兼任	講師	藤川 芳夫 (65) ＜令和4年4月＞ 工学修士	兼任	講師	藤川 芳夫 (65) ＜令和4年4月＞ 工学修士	兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		理工系教養の課題研究			理工系教養の課題研究									
兼任	講師	牧野 正和 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	兼任	講師	牧野 正和 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		環境化学			環境化学									
兼任	講師	矢野 正俊 (75) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	矢野 正俊 (75) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
		文化と文明			文化と文明									
兼任	講師	村上 あつ子 (74) ＜令和4年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	村上 あつ子 (74) ＜令和4年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	村上 あつ子 (75) ＜令和4年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師		兼任	講師	
		理工系教養の英語			理工系教養の英語			理工系教養の英語						
兼任	講師	規矩 大義 (60) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	規矩 大義 (60) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	規矩 大義 (60) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	規矩 大義 (61) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	規矩 大義 (61) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
		耐震工学			耐震工学			耐震工学			耐震工学			耐震工学
兼任	講師	小濱 英司 (51) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	小濱 英司 (51) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	小濱 英司 (51) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	小濱 英司 (52) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）	兼任	講師	小濱 英司 (52) ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
		運輸施設工学			運輸施設工学			運輸施設工学			運輸施設工学			運輸施設工学
兼任	講師	長縄 知行 (63) ＜令和6年4月＞ 学士（工学）	兼任	講師	長縄 知行 (63) ＜令和6年4月＞ 学士（工学）	兼任	講師	長縄 知行 (63) ＜令和6年4月＞ 学士（工学）	兼任	講師		兼任	講師	
		環境工学			環境工学			環境工学						
兼任	講師	横山 賢治 (45) ＜令和7年4月＞ 学士（理学）	兼任	講師	横山 賢治 (45) ＜令和7年4月＞ 学士（理学）	兼任	講師	横山 賢治 (45) ＜令和7年4月＞ 学士（理学）	兼任	講師	横山 賢治 (45) ＜令和7年4月＞ 学士（理学）	兼任	講師	
		環境保全工学			環境保全工学			環境保全工学			環境保全工学			
			兼任	講師	William Sean Gibb (57) ＜令和4年4月＞ Bachelor of Arts (Political Science and English) (カナダ)	兼任	講師	William Sean Gibb (58) ＜令和4年4月＞ Bachelor of Arts (Political Science and English) (カナダ)	兼任	講師	William Sean Gibb (59) ＜令和4年4月＞ Bachelor of Arts (Political Science and English) (カナダ)	兼任	講師	William Sean Gibb (60) ＜令和4年4月＞ Bachelor of Arts (Political Science and English) (カナダ)
					Advanced English 1 Advanced English 2 General English 1			Advanced English 1 Advanced English 2 General English 1 General English 3 General English 4			Advanced English 1 Advanced English 2 Advanced English 3 Advanced English 4 General English 1 General English 3 General English 4			
			兼任	講師	市川 真矢 (61) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師		兼任	講師		兼任	講師	
					General English 1 General English 2									
			兼任	講師	新谷 誠 (53) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	新谷 誠 (54) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	新谷 誠 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	新谷 誠 (56) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
					線形代数/演習			線形代数/演習			線形代数/演習			線形代数/演習
			兼任	講師	高林 秀次 (49) ＜令和4年9月＞ 博士（理学）	兼任	講師	高林 秀次 (50) ＜令和4年9月＞ 博士（理学）	兼任	講師	高林 秀次 (51) ＜令和4年9月＞ 博士（理学）	兼任	講師	高林 秀次 (52) ＜令和4年9月＞ 博士（理学）
					生物学			生物学			生物学			生物学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等		
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名		
			兼任	講師	小林 久理眞 (69) ＜令和4年9月＞ 工学博士											
					応用数学											
						兼任	講師	朴 喜貞 (53) ＜令和5年4月＞ 学士（理学） （韓国）		兼任	講師	朴 喜貞 (54) ＜令和5年4月＞ 学士（理学） （韓国）		兼任	講師	朴 喜貞 (55) ＜令和5年4月＞ 学士（理学） （韓国）
			韓国語1 韓国語2		韓国語1 韓国語2				韓国語1 韓国語2							
						兼任	講師	山脇 一 (70) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒		兼任	講師	山脇 一 (71) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒		兼任	講師	山脇 一 (72) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒
			理工系教養の課題研究		理工系教養の課題研究				理工系教養の課題研究							
						兼任	講師	梅田 泰 (49) ＜令和5年4月＞ 修士（教育学）		兼任	講師	梅田 泰 (50) ＜令和5年4月＞ 修士（教育学）		兼任	講師	梅田 泰 (51) ＜令和5年4月＞ 修士（教育学）
			General English 1 General English 2		General English 1 General English 2				General English 1 General English 2							
						兼任	講師	狭間 敏行 (47) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）		兼任	講師	狭間 敏行 (48) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）				
			General English 1 General English 2		General English 1 General English 2				General English 1 General English 2							
						兼任	講師	田中 瑞枝 (41) ＜令和5年4月＞ 博士（文学）		兼任	講師	田中 瑞枝 (42) ＜令和5年4月＞ 博士（文学）		兼任	講師	田中 瑞枝 (43) ＜令和5年4月＞ 博士（文学）
			General English 3 General English 4		General English 3 General English 4				Advanced English 3 General English 3 General English 4				Advanced English 3 General English 3 General English 4			
						兼任	講師	吉田 寛 (50) ＜令和5年9月＞ 博士（文学）		兼任	講師	吉田 寛 (51) ＜令和5年9月＞ 博士（文学）		兼任	講師	吉田 寛 (52) ＜令和5年9月＞ 博士（文学）
			文化と文明		文化と文明				文化と文明				文化と文明			
						兼任	講師	天内 大樹 (43) ＜令和5年9月＞ 修士（文学）		兼任	講師	天内 大樹 (44) ＜令和5年9月＞ 修士（文学）				
			芸術論		芸術論				芸術論							
						兼任	講師	内藤 博敬 (55) ＜令和5年9月＞ 博士（学術）		兼任	講師	内藤 博敬 (56) ＜令和5年9月＞ 博士（学術）		兼任	講師	内藤 博敬 (57) ＜令和5年9月＞ 博士（学術）
			環境化学		環境化学				環境化学				環境化学			
									兼任	講師	天野 利彦 (68) ＜令和6年4月＞ 文学修士		兼任	講師	天野 利彦 (69) ＜令和6年4月＞ 文学修士	
							理工系教養の英語				General English 3 General English 4 理工系教養の英語					
								岡久 太郎 (33) ＜令和6年4月＞ 博士（人間・環境学）	兼任	講師	岡久 太郎 (34) ＜令和6年4月＞ 博士（人間・環境学）		兼任	講師	岡久 太郎 (34) ＜令和6年4月＞ 博士（人間・環境学）	
							General English 1				General English 1 General English 2					
								泉田 達哉 (63) ＜令和6年9月＞ 博士（工学）	兼任	講師	泉田 達哉 (64) ＜令和6年9月＞ 博士（工学）		兼任	講師	泉田 達哉 (64) ＜令和6年9月＞ 博士（工学）	
							土地地質学				土地地質学					
												兼任	講師	堀川 泰乃美 (42) ＜令和7年4月＞ 学士（理学）		
											健康の科学					
									兼任	講師	富田 晋司 (63) ＜令和7年4月＞ 修士（文化政策）		兼任	講師	富田 晋司 (63) ＜令和7年4月＞ 修士（文化政策）	
											職業指導					

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・中澤博志（専任）の担当科目を追加
- ・友次克子（兼任）の担当科目をWilliam Sean Gibb（兼任）に変更
- ・牧野育代（兼任）の担当科目を竹内一博（兼任）に変更
- ・谷ロジョイ（兼任）の担当科目をWilliam Sean Gibb（兼任）、市川真矢（兼任）に変更
- ・R. G. McNabb（兼任）の担当科目をWilliam Sean Gibb（兼任）に変更
- ・紀ノ定保礼（兼任）の職位を変更
- ・小土橋陽平（兼任）の担当科目を佃論志（兼任）に変更
- ・金久保正明（兼任）の担当科目を四宮友貴（兼任）に変更
- ・大石昌利（兼任）の担当科目を竹内一博（兼任）に変更
- ・三林雅彦（兼任）の担当科目を新谷誠（兼任）に変更
- ・奥村哲（兼任）の担当科目を高林秀次（兼任）に変更
- ・関山秀雄（兼任）の担当科目を小林久理真（兼任）に変更

【令和5年度】

- ・富永知徳（専任）の担当科目を追加
- ・足立雅樹（専任）就任月変更
- ・足立雅樹（専任）の担当科目を中澤博志（専任）に変更
- ・鈴木一史（専任）の担当科目を追加
- ・居波智也（専任）の担当科目を追加
- ・石田隆弘（兼任）の担当科目を富田寿人（兼任）に変更
- ・小栗勝也（兼任）の担当科目を十朱寧（兼任）に変更
- ・加藤智久（兼任）の担当科目を加藤昌樹（兼任）に変更
- ・感本広文（兼任）の担当科目を中澤博志（専任）に変更
- ・水野信也（兼任）の担当科目を中澤博志（専任）に変更
- ・友次克子（兼任）の担当科目を谷ロジョイ（兼任）、臼田泰如（兼任）、William Sean Gibb（兼任）、梅田泰（兼任）、狭間敏行（兼任）、田中瑞枝（兼任）に変更
- ・A. B. Jenkins（兼任）の担当科目を臼田泰如（兼任）、William Sean Gibb（兼任）、梅田泰（兼任）、狭間敏行（兼任）、田中瑞枝（兼任）に変更
- ・谷ロジョイ（兼任）の担当科目をWilliam Sean Gibb（兼任）、田中瑞枝（兼任）に変更
- ・R. G. McNabb（兼任）の担当科目を谷ロジョイ（兼任）、臼田泰如（兼任）、William Sean Gibb（兼任）、梅田泰（兼任）、狭間敏行（兼任）、田中瑞枝（兼任）に変更
- ・松田崇（兼任）の担当科目を天内大樹（兼任）に変更
- ・藤原弘（兼任）の担当科目を吉見直人（兼任）に変更
- ・金兌柱（兼任）の担当科目を朴喜貞（兼任）に変更
- ・菅沼義昇（兼任）の担当科目を佐藤彰（兼任）、本良瑞樹（兼任）に変更
- ・竹内一博（兼任）の担当科目を加藤智久（兼任）に変更
- ・中谷広正（兼任）の担当科目を追加
- ・藤川芳夫（兼任）の担当科目を山脇一（兼任）に変更
- ・矢野正俊（兼任）の担当科目を吉田寛（兼任）に変更
- ・市川真矢（兼任）の担当科目を谷ロジョイ（兼任）、臼田泰如（兼任）、梅田泰（兼任）、狭間敏行（兼任）に変更
- ・小林久理真（兼任）の担当科目を脇川祐介（兼任）に変更
- ・牧野正和（兼任）の担当科目を内藤博敬（兼任）に変更
- ・本良瑞樹（兼任）、臼田泰如（兼任）、吉見直人（兼任）、脇川祐介（兼任）、加藤昌樹（兼任）、朴喜貞（兼任）、山脇一（兼任）、梅田泰（兼任）、狭間敏行（兼任）、田中瑞枝（兼任）、吉田寛（兼任）、天内大樹（兼任）、内藤博敬（兼任）を科目担当に追加

【令和6年度】

- ・富永知徳（専任）の担当科目を松本健作（専任）に変更、担当科目を追加
- ・足立雅樹（専任）は令和5年9月に就任辞退。後任としてMahapatra Kedarnath（専任教授）を令和5年9月より新規採用。
- ・足立雅樹（専任）の担当科目を中澤博志（専任）、柴田達哉（兼任）に変更
- ・Mahapatra Kedarnath（専任）を科目担当に追加
- ・中澤博志（専任）の担当科目を松本健作（専任）、居波智也（専任）、Mahapatra Kedarnath（専任）に変更、担当科目を追加
- ・西田孝弘（専任）の担当科目を松本健作（専任）に変更、担当科目を追加
- ・松本美紀（専任）の担当科目を松本健作（専任）に変更、担当科目を追加
- ・鈴木一史（専任）の担当科目を松本健作（専任）に変更、担当科目を追加
- ・居波智也（専任）の担当科目を松本健作（専任）に変更、担当科目を追加
- ・加藤智久（兼任）の担当科目を竹内一博（兼任）に変更
- ・感本広文（兼任）の担当科目を居波智也（専任）に変更
- ・佐藤健司（兼任）の担当科目を谷ロジョイ（兼任）に変更
- ・十朱寧（兼任）の担当科目を服部知美（兼任）に変更
- ・野崎孝志（兼任）の担当科目を吉見直人（兼任）に変更
- ・牧野育代（兼任）の職位を変更
- ・谷ロジョイ（兼任）の職位を変更、担当科目を追加
- ・本良瑞樹（兼任）の職位を変更
- ・吉見直人（兼任）の担当科目を追加
- ・脇川祐介（兼任）の職位を変更
- ・服部知美（兼任）を科目担当に追加
- ・竹内一博（兼任）の担当科目を追加
- ・村上あつ子（兼任）の担当科目を天野利彦（兼任）に変更
- ・長縄知行（兼任）の担当科目をMahapatra Kedarnath（専任）に変更
- ・狭間敏行（兼任）の担当科目を岡久太郎（兼任）に変更
- ・田中瑞枝（兼任）の担当科目をA. B. Jenkins（兼任）、William Sean Gibb（兼任）に変更、担当科目を追加
- ・天野利彦（兼任）を科目担当に追加
- ・岡久太郎（兼任）を科目担当に追加
- ・柴田達哉（兼任）を科目担当に追加

【令和7年度】

- ・富永知徳（専任）、中澤博志（専任）、西田孝弘（専任）、Mahapatra Kedarnath（専任）、松本美紀（専任）、鈴木一史（専任）、居波智也（専任）の担当科目を松本健作（専任）に変更
- ・居波智也（専任）の担当科目を富永知徳（専任）に変更
- ・鈴木一史（専任）の担当科目を松本美紀（専任）に変更
- ・Mahapatra Kedarnath（専任）の担当科目を追加
- ・横山賢治（兼任）の担当科目をMahapatra Kedarnath（専任）に変更
- ・秋山憲治（兼任）の担当科目を兼子一（兼任）に変更
- ・太田達見（兼任）、丸田誠（兼任）、佐藤健司（兼任）の担当科目を崔琥（兼任）、脇坂圭一（兼任）、渡辺英義（兼任）、長尾亜子（兼任）、石川春乃（兼任）、田井幹夫（兼任）、鍋島佑基（兼任）、林英昭（兼任）、ERIDENGAOQIER（兼任）に変更
- ・佐藤彰（兼任）の担当科目を牧野育代（兼任）に変更
- ・佐藤彰（兼任）の職位を変更
- ・十朱寧（兼任）の担当科目を本井幸介（兼任）に変更
- ・紀ノ定保礼（兼任）の担当科目を津田裕之（兼任）に変更
- ・四宮友貴（兼任）の職位を変更
- ・加藤昌樹（兼任）の担当科目を追加
- ・中川伝一（兼任）を科目担当に追加
- ・石井馨（兼任）の担当科目を堀川素乃美（兼任）に変更
- ・大鷹紀信（兼任）の学位を変更
- ・田中瑞枝（兼任）の担当科目をWilliam Sean Gibb（兼任）に変更
- ・William Sean Gibb（兼任）の担当科目を追加
- ・William Sean Gibb（兼任）の担当科目を天野利彦（兼任）に変更
- ・狭間敏行（兼任）の担当科目を岡久太郎（兼任）に変更
- ・田中瑞枝（兼任）の担当科目を追加
- ・天内大樹（兼任）の担当科目を山口貴一（兼任）、横地敬（兼任）、羽島昂平（兼任）、丹羽あや（兼任）、藤石清香（兼任）、根木隆之（兼任）、西山雄大（兼任）に変更
- ・天野利彦（兼任）の担当科目を追加
- ・富田晋司（兼任）を科目担当に追加

(注) ・変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**原則としてA C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「○年○月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）」の設置の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2) -④ 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2) -② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) -① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8	4
名	名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) -② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
5	3	0	0	8	0	5	3	0	0	8	0
(3)	(1)	(0)	(0)	(4)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
5	3	0	0	8	0	5	3	0	0	8	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) -③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授、准教授 65 講師、助教 60 歳	0	0
	名	名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、

及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている

教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{8}{8} = \boxed{100} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	足立 雅樹	R5.09	必修	卒業研究 1	①	R5.09 教員都合のため就任辞退（6）			
				必修	卒業研究 2	①				
				必修	土質力学演習	①				
				選択	地盤工学	①				
				選択	土木地質学	①				
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	5	科目	計	0	科目

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

- ・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定とながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
-	-	-	-	-	-	-	-						
合計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）							
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
1	人	必修	3 科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	2 科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	5 科目	計	5 科目	計	0 科目	計	0 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{8} = 12.5 \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

(注)・(3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

- ・令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
-	-	-	-	-	-	-				
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注)・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任辞退に伴い令和5年度に公募を速やかに行い、間断なく辞任者に代わる新しい専任教員を採用し、学生には履修ガイダンスにおいて周知を行い、特段の問題はないと考えられる。

- (注)・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入し

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和3年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和4年度)	教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。	—R4年度入学生向け— 【学生募集の取り組み状況、結果】 ○収容定員の増加に係る学則変更の認可がおりた8月末から本格的に募集活動を開始した。 ○新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、一部制限を掛けつつ、学生募集活動をおこなった。 ○「大学見学会」「オープンキャンパス」は、前年の経験を踏まえ、実施学科、時間帯、参加学年、参加人数による制限を設けた「学校開催版」と動画配信を中心とした「WEB版」のハイブリット型で実施した。 ➢計5回のオープンキャンパス（学校開催版）では延べ357名 ➢7回の大学見学会（学校開催版）では延べ392名 ➢静岡県内及び東海地域を中心とした高校訪問（計145回） ➢高校での進学ガイダンス（計131回） ➢会場ガイダンス（計56回） ○県内のみならず、近隣県もターゲットに、土木工学科の開設を訴求するWEBツールや進学媒体等を駆使し活動した。 ○土木工学科PR用のリーフレットを製作し配布した（2万部） ○高校教員対象説明会にてR4年4月開設予定土木工学科（仮称）の概要について説明を行った。 ○学長、土木工学科設置準備室（教員）が県内高校（計23校）の校長及び進路担当者を訪問し、新設される土木工学科の学びの特色や就職先などについて説明を行うなどPR活動を行った。 【入試結果】 ○開設初年度である令和4年4月の入学者数は31人（入学定員充足率62%）となった。志願者数は162名、志願倍率3.2倍で、歩留率0.26であった。 【入試分析と対応策】 ○学校推薦型選抜の志願者拡大・入学者の確保が課題 ➡志願者拡大のため、対象とする普通高校等への情報発信力を強化する。 ○募集対象年次生の減少期、大規模有名大学志向や地方国公立大学の低志願倍率などの影響もあり、合格者の歩留率が想定以上に低くなり、入学定員を大幅に割り込む結果となった。 ➡併願校との競合の激化に対し、志願者動向把握や土木工学科の魅力への訴求向上させる。 【学生募集分析と対応策】 ○要因は、高校生に対して本学で土木工学を学ぶことの魅力を伝え切れなかった点が挙げられる。行政を含めた社会ニーズは依然として高い分野であり、工学的観点から、まちづくりや防災・減災に貢献できる内容を学ぶ学科であることが伝えられていない。 ○中学生、高校生にとっては、土木工学科の就職先が工事現場の作業員のイメージを持たれている事例も多いため、正しい職業理解を目的としたイベントの開催も中期的な視点が必要であると分析している。 ➡行政（静岡どぶくらぶ）と連携して、高校生への出前講座や学科紹介を行う。 ○オープンキャンパス、大学見学会いずれも事前予約制となったが、より関心の高い反応者の獲得に努めた結果、募集対象当年次生の新規者の参加者があった。 ➡コロナ禍の制限ある中、広報は効果的に情報媒体の露出やメディア・オンラインを活用し、会場ガイダンス等は県内を重点的に網羅する ○翌年完成する施設・設備面を活用してPR活動を図る。	—R6年度入学生向け— 【学生募集の取り組み方針】 ○学内の最高議決機関でもある学長を議長とする大学評議会において、学生募集活動に関する緊急推進体制を整え、同会議で学生募集を定例審議事項とし、情報共有、迅速な意思決定が可能な体制で取り組む。まずはコロナ禍により中断していた各種広報活動の充実についての見直しを行う。 ○試験種別での高校生の本学の情報入手方法を分析し、効果的な広報活動を検討する。 ○土木分野における高校生の魅力の検証を行い、職種イメージの改善を行う。 ○オープンキャンパスは事前予約での学科選択制から、コロナ禍前の複数学科エントリーを可能にするなど、多くの高校生に本学の魅力を伝えることができるよう実施方法の見直しを行う。 ○完成した学科棟・実験棟を活用して、高校生・高校教員への接触機会を創出する。 ○広報活動における各媒体やイベントの機能や役割を明確にするなど広報分析を行う。 ○遠方地域をターゲットとした新たなオンラインイベント開催する。 ○歩留率向上のためのイベントを検討する ○静岡県内の土木工学関連学科を有する工業高校と連携する。 ○静岡県工業高校校長会との連携を強化する。 ○志願者増加のため、選抜方法を見直し（総合型・給費奨学生選抜）、広報の方法やツールを検討し実行する。 ○志願者増加のため、指定校推薦に関して当該学科の枠を拡充する、被推薦資格を改定するなど入学者選抜に関する見直しを検討し、学生の確保を図る。 ○一般選抜系（一般・共通テスト）出願段階での歩留り向上のための広報ツールを検討、実施する。 ○競合校との差別化、本学での人材育成や教育内容、将来の就職についてなど、本学の魅力を高校生にしっかりと伝える手法を再検討するなど、情報発信の強化に努める。 ○学部学科再編の検討を始め、静岡県内で唯一、建築学科、土木工学科を有する特徴を生かすための再編計画立案を開始する。 【学生募集の取り組み状況、結果】 ➢WEB開催と併せて対面型での計3回のオープンキャンパスでは延べ980名、 ➢計6回の大学見学会では延べ471名。来年2月も開催を予定している。 ➢静岡県内及び東海地域を中心とした高校訪問（計252回）一般選抜試験に向けて、現在各校訪問を実施している。 ➢高校での進学ガイダンス（計126回） ➢会場ガイダンス（計65回） ※全て12月時点の集計値 ○学長のリーダーシップのもと、大学評議会が中心となり、広報活動や学生募集について全学一丸となって推進する体制を構築した。毎月2回の会議にて学生募集活動に関する情報共有、迅速な意思決定を行っている。 ○受験生サイトをリニューアルし、情報を鮮度高く届け、サイト内回遊向上と離脱率改善を行った。 ○高校生への調査により、受験者の多数が、本学の情報をHPから収集するとの分析から、学科HPを製作し、教育特色のPRを重視した。 ○「土木」の高校生の職種イメージ（現場作業員）を払拭するため、より本質的に「土木工学」にフォーカスし、イラスト等を多用して、「土木工学科」の魅力を伝える広報を行った。 ○オープンキャンパスは、今年から、複数学科エントリーを可能とし、高校生との接触機会を増やす仕組みを導入とした。 ○オープンキャンパスで、全ての教職員が同じコンセプトで高校生に対応できるよう、教職員研修会を実施した。

		—R5年度入学生向け— 【学生募集の取り組み状況、結果】 ○新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、一部制限を掛けつつ、学生募集活動をおこなった。 ➢WEB開催と併せて対面型での計3回のオープンキャンパスでは延べ730名 ➢6回の大学見学会では延べ334名 ➢静岡県内及び東海地域を中心とした高校訪問（計312回） ➢高校での進学ガイダンス（計134回） ➢会場ガイダンス（計62回） を通じて志願者数の増加に努めた。 ○さらに建設分野（土木・建築）にスポットを当てたリーフレットを制作し、2万部配布した。 ○行政（静岡どぼくらぶ等）と連携して、本学で、高校生向けの土木工学の魅力伝えるイベントを開催し、潜在的な進学希望者の掘り起こしを行った。 ○教育内容の充実を図るため、授業内容のオンデマンド配信を、対面授業の予習、復習にも取り入れ、さらに、教育の可視化のため、教員個々の授業に関する自己評価結果、及び学生の授業評価アンケート結果を全教員に開示するなど、本学の教育の質の向上に努めた。 【入試結果】 ○その結果、令和5年4月の入学者数は13人（入学定員充足率26%）に留まった。 ○令和5年度入学者選抜では、志願者数は142名、志願倍率2.8倍のため、前年の結果を考慮し、合格基準を見直したが、歩留率の減少（歩留率0.11）を予測できなかった。 【入試分析（過去2年）と対応策】 ○普通高校からの志願者が少なく、安定した学生確保に繋がっていない。 ⇒志願者拡大のため、総合型と学校推薦型を含めて制度構築・見直しを行う。 ○一般選抜での志願者が少ない。 ⇒推薦型制度の普及と併せて広報の見直しを行う。 ○歩留率が減少した理由として、過去2年の入学者アンケートにおける併願校調査では、国公立大学や関東圏の大規模大学が多く、併願校との競合の激化が挙げられる。 ⇒本学の魅力を多面的に伝えていく施策、伝えるべき内容の整理を行う。 【学生募集分析（過去2年）と対応策】 ○新設した土木工学科棟及び実験棟の完成が開校後の1年目の10月末だったこともあり、年度後半での施設・設備面でのPRを行ったが、年度前半での募集・広報活動において使用できず、出遅れたことも影響していると分析している。 ⇒生徒や高校教員との接触機会を創出するため、施設活用して広報方法の拡充を行う。 【2年間の取り組み総括】 ○志願者動向に対応した入試の展開が必要。 ⇒入試制度を見直し、年内での入学者増加に重点を置きつつ、一般選抜志願者層への浸透を図る。 ○高校生に魅力ある土木工学科の訴求が必要 ⇒「土木」の職種イメージの払拭、「土木工学」の魅力にフォーカスする広報を行う ○潜在的なニーズの掘り起こしが必要。 ⇒県内の工業高校と連携して、中学生や高校生への広報活動を通じて、広く「土木工学」についての周知する機会を創出する。 (5) (6)	○OC等イベント、高校単独見学会での先輩講演、WEB版OCでの学生生活紹介動画などに本学学生を起用し、将来像や学生生活のイメージを想起させるなど内容を見直した。 ○完成した学科棟・実験棟を活用して、高校進路指導担当教員を招き、当年度の入試内容等について説明を行う高校教員対象説明会を開催した。 ○高校訪問や会場ガイダンス等による広報活動について、高校生との接触機会を増やし、効果的な情報発信ができるよう、対象校や訪問内容の見直しを行った。 ○遠方等をターゲットとしてオンライン大学見学会を4回実施した。 ○歩留率の向上を目的として、これまでの試験合格者及びその保護者を対象としたオリエンテーションを開催した。（12/26）（以下全て12月時点の中間集計値となります。） ○静岡県内の土木工学関連学科を有する工業高校（5校）の生徒及び教職員の来学イベントを計画 ○静岡県内の各工業高校校長を訪問し本学の教育・研究の特色を説明し、今後の連携を検討した。さらに工業高校長会を本学にて開催し、大学説明・学科紹介・施設見学会を実施し、本学の教育の特色等についてPRを行った。 【今年度の学生確保の状況（総合型選抜、学校推薦型選抜）】 ○総合型選抜では、受験者（実人数）17人、合格者（実人数）17人であった。学校推薦型選抜では、受験者（実人数）21人、合格者（実人数）21人となっており、現時点で、受験者、合格者ともに過去2年を上回っている。 ○歩留率向上、一般選抜での受験者・入学者確保に努める。 (5) (6)
--	--	---	---

設置計画履行状況 調査結果 (令和5年度)	収容定員充足率が0.44倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、速やかに長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の更なる充足に努めること。また、当該分析を踏まえ、入学定員の見直しも検討すること。(理工学部土木工学科)	【ＡＣ】 指摘事項 (是正)	—R6年度入学生入試結果— 【入試結果】 ○令和6年4月の入学者数は33人(入学定員充足率66%)となった。志願者数は131名、志願倍率2.6倍で、歩留率0.28であった。 【入試分析と対応策】 ○前年の結果を考慮し、合格基準を見直し、さらに歩留率向上のためのイベントの開催などにより、歩留率は前年度(0.11)から(0.28)に上昇した。 ○総合型選抜の志願者、入学者が増加した ➢今回から当該選抜を導入し、受験しやすさを意識した制度とした結果、志願者が8名、入学者が8名であった。 ➢次年度、高校への募集広報の早期化が必須である。 ○推薦型選抜の志願者、入学者が増加した。 ➢指定校推薦に関して当該学科の枠を拡充した結果、志願者が前年16名から21名、入学者が前年12名から16名へと増加した。 ○一般型選抜の志願者、入学者の増加が必須。 ➢志願者は前年123名から90名へと減少したが、入学者は前年0名から5名へと増加した。歩留率の向上が大きい。 ➢下記給費型制度と連携した制度構築により、さらなる増加を目指す。 ○給費型奨学生選抜の志願者・入学者が増加した。 ➢受験制度(受験資格の拡大)の見直しを図ったことが、受験生の増加の一因といえ、国公立併願者への訴求が功を奏したと言える。 ➢志願者拡大のため、対象とする普通高校等への情報発信力を強化した結果、志願者が前年3名から11名、入学者が前年1名から4名へと増加した。 ○歩留率は向上しているが、さらに改善していく必要がある。 ○入試制度改革の効果をより具体的に検証し、さらなる見直しを検討する。 【学生募集分析と対応策】 ○同規模の他大学と比較した際に、志願者数は決して少なくはない。しかし、反応者数からみると、本来はもっと志願者を増やすことが可能と言える。高校生個々に適切なタイミングで、適切な情報提供をして、志願者に、そして入学へと育ていく募集広報アプローチが必要となる。 ○広報活動の早期化が必須であり、そのため、広報方針策定や、入試制度の見直し等を例年より4か月前倒して開始し、策定を目指す。 ○毎年見直しされる本学の入試制度の内容を、高校生や高校教員に分かりやすく伝えるための専用パンフレット作成が必要である。 ○高校生に対し、広く伝えるマス広報を継続しつつ、本学が求めている高校生像をしっかりと高校教員に伝えていく広報も併行していく。 ○学科ホームページを刷新したことで、一般選抜で入学を検討している高校生が閲覧し、入学の際の参考としているとの結果も出てきた。今後、高校生が見たい情報が、しっかり発信できているのか検証が必要である。入学者へのヒアリング等を実施して、高校生の求める情報を精査し提供する必要がある。 ○本学在学生(主に新入生)の出身高校に対し、土木工学科教員が訪問し、今年度入試概要等のPRや、学科の取り組み等を説明する機会を計画する。	履行中 —R7年度入学生向け— 【学生募集の活動方針】 ○学長を議長とする学内の最高議決機関でもある大学評議会にて、引き続き、学生募集活動に関する内容を、定例事項とし、情報共有、迅速な意思決定が可能な体制で取り組む。 ○全教職員が危機感を共有し、学長のリーダーシップのもと、一丸となって学生募集活動に努める。 ○オープンキャンパス等で、全ての教職員が同じコンセプトで高校生に対応できるようSD研修会を実施する。 ○早期化、個別化を意識し各活動を強化していく。 ○令和6年4月に開設した学校法人静岡理工科大学静岡駅前キャンパスを活用した広報活動を実施し、静岡県東部、中部地区での大学プレゼンスの向上を目指す。 ○県立高校校長会、工業高校校長会との連携を強化する。 ○本学防災教育センターによる専門高校、高校教員を対象とした広報活動を推進する。 ○大学HPと受験生サイトを統合し、高校生目線での情報収集のしやすさ、見やすさを向上させる。 ○SNSを活用して幅広い層への情報発信を強化する。 ○学生アンバサダー制度を導入し、在学生による本学広報活動への積極的な協力を依頼し、広報発信力の強化する。 ○女子学生の確保のための施策を自治体や企業とも連携して検討する。 ○入学前教育を見直し、合格者への個別指導を充実させ、高校生・保護者・高校教員の安心感と本学入学への期待感を高める内容へと充実させ、広報活動においてPR強化を図る。 ○反応者から志願者へ、そして入学者へと育成していく募集広報を推進する。 ○歩留率の向上、総合型選抜・給費奨学生選抜制度等のさらなる見直しを行う。 ○静岡県内唯一の建築学科・土木工学科を有する本学の特徴を生かす学部学科再編(適正な入学定員の検討含む)による魅力ある学科づくりを検討する。 【学生募集の取り組み状況・結果】 ○広報活動早期化のため、広報方針策定、入試制度の見直し等を例年より(4か月程度)前倒し実施した。 ○入学者および非入学者(他大学への進学者等)へのアンケート調査を実施した。(現在、集計分析作業中) ○大学評議会にて、主な選抜入試区分ごとの目標入学者数を定め、目標実現に向け学科の募集広報活動方針について協議を行った。 ○今年度の総合型選抜の見直し内容を踏まえた専用パンフレットを作成し、4月から高校への広報を開始した。 ○進学模試専門業者を招き、全国的な受験者動向や、近隣の大学等の募集傾向についてSD研修会を実施した。 ○学長による今年度の方針説明会を開催し、学生募集に関する方針を説明し、教職員の共通理解を深めた。 ○自治体との連携を推進するため、大学と意見交換会を定期的に行うこととし、まずは課題共有のための会合を実施した。 ○学長を含め土木工学科教員による募集施策検討会を開催し、今年度の学科における具体的な募集施策の検討を開始した。 ○大学公式Instagramを開設し、運用を開始した。 ○学生アンバサダーとして、広報用の写真撮影を写真部に対し正式に依頼し、活動を開始した。 ○県内の工業高校校長会との包括連携協定を締結し、イベントの共同開催などの計画検討を開始した。 【今後の実施施策】 ○入学者および非入学者(他大学への進学者)へのアンケート調査の分析結果に基づき、各広報施策の内容を随時、見直す。 ➢静岡県内及び東海地域を中心とした高校訪問 ➢高校での進学ガイダンス ➢会場ガイダンス ➢WEB開催と併せて対面型でのオープンキャンパスの開催(計3回予定) ➢大学見学会の開催(計7回予定) ➢合格者対象オリエンテーション(対面及びオンライン：1回) ➢受験生サイトなど ○在学生へのヒアリング等を実施し、学科HPで、高校生目線で学科の魅力をしっかりPRできる情報を検討を行う。 ○入学実績のある高校への学科教員の訪問を行い、在学生の近況報告や、求める高校生像、今年度の入学選抜に関する情報提供を行う。 ○高校進路担当者を集めた高校教員対象説明会を本学(静岡県西部地域)及び静岡駅前(静岡県東部・中部地域)の2か所で開催する
--------------------------------------	---	-------------------------------	---	---

設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和6年度)	収容定員充足率が0.50倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の更なる充足に努めること。また、速やかに長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、適切な入学定員の見直しを検討すること。	【ＡＣ】 是正意見	—R7年度入学生入試結果— 【入試結果】 令和7年4月の入学者数は25人（入学定員充足率50.0%）となった。志願者数は107名、志願倍率2.14倍で、歩留率0.28であった。 【入試分析と対応策】 ○総合型選抜の志願者数が減少。さらに歩留率も減少した。 ⇒エントリー数は13名と昨年度比6名減、合格者数も13名で昨年度比6名減と減少している。さらに5名の辞退者により入学者が8名に留まった。 ○推薦型選抜の入学者数が大幅に減少し、定員の安定的な確保困難に繋がっている。 ⇒志願者14名で昨年比7名減となった。入学者は14名で昨年比2名減となった。上位校への進学傾向が高まっている。目標としていた推薦系比率50%に届かなかった。 ○一般選抜は、特に顕著な減少傾向が見られる。 ⇒志願者17名で昨年比7名減となり、入学者は0名であった。合格者は他分野へ進学しており、学科の魅力低減が伺える。 【学生募集分析と対応策】 ➢WEB開催と併せて対面型での計3回のオープンキャンパスでは延べ1076名 ➢7回の大学見学会では延べ445名 ➢静岡県内及び東海地域・山梨県・長野県を中心とした高校訪問 ➢高校での進学ガイダンス、会場ガイダンス（計176回） ○オープンキャンパス等の反応者は増加したものの、出願・入学に結び付かない状況 ⇒前年と比較して、大学全体でのイベント参加者は微増した（1491名⇨前年1451名）が、そこからの志願・入学にはつながっていない。参加者の関心喚起には成功しているものの、本学の魅力が十分に伝わっていない、あるいは競合校との比較において決定的な選択理由となっていない可能性がある。 ○対象高校の定員減少および定員割れの影響が出ている。 ⇒本学の主な募集対象である工業・商業系高校を中心とした地域の高校において、定員割れや生徒数の減少が進んでおり、そもそもの募集母数が減少している。このことが志願者数の減少に直結しており、今後も継続的な影響が懸念される。 ○受験生の進学先に対する志望傾向が“上位化”している。 ⇒これまで本学を志望していた層が、指定校推薦などを利用して、より上位とされる大学へ進学する傾向が強まっている。特に国公立大学や都市部私立理工系大学への併願・進学が顕著で、地域内競合との戦略的差別化がより重要となっている。 ○情報系人気の高まりによる志願者の分散が起きている。 ⇒社会全体で情報技術分野の関心が高まる中、理工系志願者の中でも情報系への志望が集中し、電気電子・機械・土木といった従来の工学系分野からの流出が見られる。駅前キャンパスなどのプロモーション活動においても情報学部中心の発信となっていたことが、他分野への訴求不足を招いた要因と考えられる。	—R8年度入学生向け— 【学部学科再編】 ○既存の建築学科・土木工学科の学生募集を停止し、2学科の教育研究内容を統合した新たな学部学科として、R8年4月より「建築・都市デザイン学部 建築・都市デザイン学科」を新設する（R7年4月届出済）。入学定員は既存2学科の合計100名から10名減の90名とする。 【学生募集の活動方針】 ○再編成の意義と内容の丁寧な発信と、変革を遂げる大学としての新たな価値の高校生・保護者・高校教員・地域社会への発信。 ○学長を議長とする学内の最高議決機関である大学評議会における、学生募集活動に関する定例事項としての継続的な情報共有と迅速な意思決定が可能な体制での取り組み。 ○学長のガバナンス強化と意思決定の迅速化を目的とした、副学長（入試広報推進担当）ポストの設置と、入試広報業務全般の統括。 ○全教職員による危機感の共有と、学長のリーダーシップのもとでの一丸となった学生募集活動への取り組み。 ○個々の学生の夢の実現を支える「面倒見のよい大学」としての大学像の明確な打ち出し。 ○学力や偏差値ではなく、「将来につながる教育」「個別の成長支援」「地域で学び、地域で活躍できる環境」といった本学の魅力の広報での強調。 ○就職支援の成果が目に見える形で表れており、既存の建築学科や土木工学科（1期生）は、5月時点でそれぞれ29.4%、23.1%が内定を獲得している。今後は、特に地方自治体への就職も期待されており、「出口の見える化」を強力に進めることで、生徒や保護者への安心感と信頼の獲得につなげる。 ○令和8年度に新設される新学部学科は、隣接配置された校舎により、移動のしやすさ、教室・グループワーク室などの充実した設備を備え、教育環境のさらなる高度化が見込まれる。こうしたハード面の魅力も積極的に発信する。 ○入学者の推薦型40%・総合型10%・一般型25%・独自選抜による給費型25%という構成比の基本方針。 ○年内入試を中心とした入学者確保戦略による、受験生との早期接点および囲い込みの強化。 ○推薦・総合型でのターゲット校、給費・一般型でのターゲット校の明確化と、入試種別ごとの戦略の徹底。 ○高校1・2年生の段階からの継続的な関係構築と、「第一志望」としての意識づけを目的とした広報活動の推進。 ○広報方針および入試制度の見直しの前倒し（約4か月）による、年度初頭からの施策展開体制の整備。 ○入学者および非入学者（他大学への進学者）へのアンケート調査の実施。 【学生募集の取り組み状況・結果】 上記の方針を支える具体的な取り組みとしての、以下のような施策の段階的展開。 ○高校別・入試種別別パンフレットの作成と配布による、受験種別や学年に応じたセグメント広報の徹底。 ○SNSやLINEの活用による個別接点の構築。InstagramやX（旧Twitter）、TikTokなどを活用した、ターゲット層に響く情報発信と双方向のコミュニケーションの強化。 ○高校教員向け説明会の前倒し実施（5月）による、学部学科再編や入試制度の変更点の早期周知と、推薦・総合型選抜への流れの創出。 ○オープンキャンパスや見学会の内容・タイミングの見直しによる、高校の進路指導スケジュールとの連動と、適切な時期における魅力ある体験の場の提供。 ○オープンキャンパスを3月から10月まで毎月開催。令和7年3月、4月オープンキャンパスを開催（高校生315名参加）。 【広報・入試改革の全体設計と構造的対応】 ○2024年度までの2年間で「ブランド型広報」への助走フェーズと位置づけた、大学の強みや特色の再発見・整理。それを踏まえた、2025年度以降における「構築フェーズ」への移行と、全学的体制のもとでの以下の取り組みの本格化。 ➢大学の価値を全教職員で言語化し、共有するプロセスの整備。 ➢各広報媒体（パンフレット・SNS・Webサイト・イベント等）の再設計。 ➢反応者（イベント参加者等）→志願者→入学者の導線設計の最適化。 ➢学部・学系ごとのストーリーや強みの整理と、それぞれの“未来像”としての提示。 ○一連の取り組みを通じた、「静岡県理工科大学ならではの魅力」への共感と、進学先として選ばれる受験生の増加の実現。
---	--	----------------------	---	--

		【入学定員の見直しの検討】 令和8年度に新たに設置を予定する建築・都市デザイン学部 建築・都市デザイン学科（入学定員90名）は、既存の建築学科および土木工学科の機能を統合・再編することにより、教育内容の深化と対象学生層の拡大を図るものである。建築・土木・都市計画分野を融合した総合的な教育を展開することで、次世代の都市空間創造を担う人材の育成を目指している。入学定員の設定は、東海地域（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）、山梨県、長野県の高校生の人数の推移、東海地域（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）、山梨県、長野県の高校生の大学進学率、工学分野の全国学生数、静岡県内の学部・学科の設置状況、既設の学部学科の学生確保の状況、本学入学者の東海地域（静岡、愛知県・岐阜県・三重県）、山梨県、長野県の出身者の割合、競合する学部学科の大学の入学者状況、学生確保に関するアンケート調査等から総合的に勘案して、入学定員を90名としていることから、十分な学生確保を見込むことができると判断している。	【今後の実施施策】 ○入学者および非入学者（他大学への進学者）へのアンケート調査の分析結果に基づく、各広報施策内容の随時見直し。 ➢競合校の分析。 ➢静岡県内および東海地域、山梨県、長野県を中心とした高校訪問。 ➢高校での進学ガイダンスへの参加。 ➢会場ガイダンスへの出展。 ➢対面型でのオープンキャンパスの開催（計9回予定）。 ➢合格者対象オリエンテーションの実施（対面およびオンライン：1回）。 ➢受験生サイトの運用 など。 ○在学生へのヒアリング等の実施による、学科HPにおける高校生目線での学科魅力のPR内容の検討。 ○入学実績のある高校への学科教員の訪問による、在学生の近況報告、求める高校生像、今年度の入学者選抜に関する情報提供。 ○高校進路担当者を対象とした高校教員向け説明会の開催（本学：静岡県西部地域、静岡駅前：静岡県東部・中部地域の2か所）。 【学部学科独自の広報】 ○新設されるの建築都市・デザイン学部の「防災教育センター」による、高校の総合学習における防災ワークショップの開催などの教育連携の強化と、土木系人材の裾野拡大に向けた広報活動の展開。本学教育内容への興味関心の喚起。
--	--	---	--

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「（6）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（7）」と記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「（6）（7）」と記載してください。

【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（7）」と記載してください。

- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的にかつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<理工学部 土木工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 教育のあり方等を検討する教育部会とその下の組織であるFD推進小委員会にて、FD活動について研修等を行う。 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 教育部会は、教育に関わる委員会の委員長等で構成され、年間で11回開催している。土木工学科の教員1名が、部会長の指名による委員として参加している。 c 委員会の審議事項等 ・ 教育の指針（3つのポリシー）にもとづいた教育評価、学修の成果の可視化の検討と状況調査 ・ 教育システム（初年次教育、アクティブラーニング、アドバンス教育、副専攻制度）の実施、調査 ・ 公開授業の実施、ベストティーチャーの選考、FD（教育シンポジウム）の実施、授業改善アンケートと評価の実施 ・ カリキュラムの取りまとめ、TA把握、オフィスアワーの実施、学生成績(GPA)の把握、進級・退学状況分析 ② 実施状況 a 実施内容 ・ 授業公開を、前期と後期にそれぞれ2週間実施する。あわせて、ベストティーチャーを選出する。 ・ 授業方法等についての教育シンポジウムを開催する。 ・ 新任教員のための研修会を開催する。 b 実施方法 ・ 教育部会で、実施内容の詳細を検討、決定し、教授会等で開催について報告する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 4月着任の新任教員の研修を実施している。新任教員全員が参加している。
- ・ 授業公開を、6月と11月にそれぞれ2週間行う。
（授業公開）前期：R6年6月3日～6月14日、後期：R6年11月4日～11月15日にて開催（原則全科目公開）
前期：33科目、参観人数38人、後期：37科目、参観人数51人
（ベストティーチャー）各期：ベストティーチャー賞1名、ベストティーチャー選奨2名を選出
- ・ 授業改善に関するFD（教育シンポジウム）を、年4回実施する。
令和6年度開催日：11月19日「2024年度前期ベストティーチャー講演」
：1月14日「2026 年新カリキュラムの概要について」
：2月18日「2024年度後期ベストティーチャー講演」
：3月4日「アントレプレナーシップ教育実施にむけて教員に求められる心がけ」
教員（延べ）参加率：97.7%

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 授業改善アンケートをもとに、各教員が授業の自己評価を行い、学長に報告する。学長、学部長が授業改善アンケートの結果とあわせて授業改善の状況等について評価し、改善に向けての助言等を行う。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 7月（前期末）及び1月（後期末）の年2回、授業改善アンケートを、原則として全教科で実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 授業アンケートの集計結果をホームページで公開している。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

新設学科における教育の目的、養成する人材像などの新設学科の趣旨や、アドミッションポリシーを示して、前年度の募集や入試制度を見直し、学生募集を実施し、入学定員50名を下回る25名の入学生を迎えた。授業等の教育活動を計画通り持っている。

令和7年4月の時点で、教員は8名全て着任し、教育研究活動を実施している。施設・設備については、新設学科の新校舎ならびに実験棟は整備され、什器や実験設備等も全て設置済みである。

授業科目の担当者について、Ⅲ類（学科専門科目）科目は計画通り実施している。Ⅰ類（人間・文化科目）科目とⅡ類（学部共通専門基礎科目）科目については、学部共通でのクラス編成の変更及び、担当授業科目の見直しにより、新設学科の科目を担当する兼担教員と兼任教員の一部に変更があった。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和4年3月16日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・令和3年度に評価機関（日本高等評価機構）の受審済。次回は令和10年度の評価を受ける計画である。

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [☒ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☐ 公表後2～3ヶ月以内 ・ ☐ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ ☐ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。